神奈川県



かながわこどもまんなかアクション事例集

かながわこどもまんなかプロジェクトとは

こども家庭庁が推奨する、こどもを社会のまんなかに据える「こどもまんなか社会」を目指し、こども・子育てにやさしい社会づくりの機運醸成を図るプロジェクトです。神奈川県は、『子育て不安解消宣言』を掲げ、「こどもまんなか応援サポーター」に就任し、県民のみなさまと、こどもや子育てに優しい社会「子育てするなら神奈川」を目指していきます。

かながわこどもまんなかアクション事例集 目 次

①居場所づくり・こども食堂　②共生社会（インクルーシブ社会）　③こども・子育て応援
④こども・若者主体のアクション　⑤体験型等こどもの育ち応援　⑥共働き・共育て

①居場所づくり・こども食堂

- 株式会社金谷商運
- 株式会社URコミュニティ横浜住まいセンター
- KUSUNOKI
- アイビス
- 江ノ島電鉄株式会社
- NPO法人I Love つづき
- NPO法人WooMoo
- NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブ
- 株式会社ファンケル
- コナミスポーツ株式会社
- 横浜マリノス株式会社／一般社団法人F・マリノススポーツクラブ

②共生社会（インクルーシブ社会）

- 株式会社フレーベルエジュケィション エンジェルナーサリー鹿島田園
- 一般社団法人うるの木
- ウエインズトヨタ神奈川株式会社／一般社団法人神奈川県自動車販売店協会
- NPO法人laule'a
- 株式会社meepa
- NPO法人発達サポートネット バオバブの樹
- 株式会社湘南ベルマーレ／一般社団法人INCLUSIVE HUB SHONAN

③こども・子育て応援

- 特定非営利活動法人メダカのお弁当
- 理究グループ 株式会社理究キッズ
- NPO法人H＆K
- 株式会社都実業
- 認定NPO法人びーのびーの
- 理究グループ（株式会社理究、株式会社理究キッズ）
- NPO法人WooMoo
- 小田急電鉄株式会社
- GUGEN Software株式会社
- 京浜急行電鉄株式会社
- 東急電鉄株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社



かながわこどもまんなかアクション事例集 目 次

①居場所づくり・こども食堂　②共生社会（インクルーシブ社会）　③こども・子育て応援
④こども・若者主体のアクション　⑤体験型等こどもの育ち応援　⑥共働き・共育て

④こども・若者主体のアクション

- 株式会社小池設備
- 認定NPO法人ミニシティ・プラス
- NPO法人あおば学校支援ネットワーク
- 株式会社Coanna

⑤体験型等こどもの育ち応援

- 絵本と子育てラボ
- 株式会社金谷商運
- 株式会社kitafuku
- こども仕事体験フェスタin横須賀・三浦実行委員会
- Lively合同会社
- アイパークインスティチュート株式会社
- 大浩グループ（株式会社大浩）
- 河西工業株式会社
- 株式会社いかす
- 株式会社小池設備
- 株式会社meepa
- 公益財団法人横浜市スポーツ協会／横浜ゆるスポーツ協会
- 特定非営利活動法人みんなのお箸プロジェクト
- 味の素株式会社 川崎事業所
- NPO法人あおば学校支援ネットワーク
- NPO法人HpRun
- 株式会社Ｊバイオフードリサイクル
- 株式会社横浜エクセレンス
- 相鉄グループ
- フィード・ワン株式会社
- 三菱ケミカル株式会社

⑥共働き・共育て

- 株式会社KSP
- パッチワークキルト株式会社（ハウス食品グループ）
- 原貿易株式会社
- 三菱ケミカル株式会社



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R8年度事例●

こども食堂の開催

https://www.instagram.com/?hl=ja

地域のこども食堂とコラボし、自社敷地内でこども食堂を開催。自社車両を使用しての死角体験やプラバン作成の体験などを提供しています。

取り組みのきっかけ

CSR・SDGs活動としてこども食堂と連携

CSRやSDG s の活動を始めるにあたり、社内会議で出た意見のうちできるものから始めることにしました。近隣にこども食堂があったため、共同開催の提案を持ち掛けたところご快諾いただけたので、実現することができました。



アクションに対する反応

自社の資源を活かしたトラック乗車体験などが好評

こども食堂の開催に合わせて、自社のトラックへの乗車体験や「死角」を学ぶ体験プログラムを提供しました。参加者からは「普段乗れない車両に乗れて貴重な体験になった」「意識しにくいトラックの死角を実感できて良かった」「ドライバーの説明がわかりやすかった」と大変好評でした。

アクションによる効果

障害のある方との交流による新たな気づき

共同開催しているこども食堂を取り仕切っているのは就労支援施設であったため、私たち社員も、ご来場いただいた方も、普段触れ合うことのない障害のある方と接する中で、新たな発見や気づきがありました。回を重ねるごとに自然と協力して楽しい一日を作ることができるようになってきました。





KANEYA SHOUN

株式会社金谷商運

主な事業：運送・製造

所在地：座間市ひばりが丘5-23-6

HP：http://www.kaneya-s.co.jp/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R8年度事例●

子育てサロン「プチ☆スター」＆こども食堂

https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/202509/001300.html

UR都市機構の「こどもつながるUR」の取組として、主任児童委員（児童福祉に関することを専門的に担当する民生委員・児童委員）や幼稚園・保育園等と連携し、予約不要の子育てサロンを毎月開催しています。交流やこどもの体験、相談の場を提供するとともに、年3回のこども食堂も実施し、企業と地域が協力しながら親子の見守りと地域のつながりを育んでいます。

取り組みのきっかけ

地域と一緒に親子の居場所をつくりたい！

2022年開始の「こどもつながるサポーター」事業を通じ、継続的な親子の居場所の必要性を感じました。区役所や主任児童委員との相談、子育て支援連絡会での検討を経て、近隣の保育園・幼稚園の協力を獲得。地域ぐるみの取組として子育てサロンを開設しました。



アクションに対する反応

孤立感や不安の緩和、食育面でも嬉しい効果

参加者からは、「親子で友達ができた」「安心して遊べる」といった声が多く寄せられています。赤ちゃんの頃から保育園・幼稚園の職員が関わることで、今後の成長をイメージしやすくなり保護者の安心につながっています。こども食堂での共食は「苦手な野菜に挑戦できた」「楽しくよく食べた」と食育面でも好影響を与えています。

アクションによる効果

取組を地域資源に！広がる支援の輪

UR都市機構・URコミュニティ・地域の子育て支援者・行政が、それぞれの強みを生かして連携し、見守り体制の強化や子育て世帯の孤立予防を実現しています。行政の子育て支援情報にも掲載されるなど地域資源としての認知も向上。運営主体を主任児童委員へ移行したことで継続的な活動となり、支援の輪が広がっています。





株式会社URコミュニティ横浜住まいセンター

主な事業：不動産管理

所在地：横浜市神奈川区金港町1-4 横浜イーストスクエア8階

HP：https://www.ur-cm.co.jp/

https://www.instagram.com/ur_yokohama_kosodate/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R8年度事例●

自習室としてのこどもの居場所

https://instagram.com/kusunoki_ibasho

毎月第1・第3日曜14：00～20：00に「誰でも使える自習室」として、公共施設の一室を無料開放しています。紅茶やコーヒー、スープ等、スティックタイプのホットドリンクも、1杯無料で提供しています。

取り組みのきっかけ

カフェで自習する子どもたちの姿を見て

多くのお子さんたちが、カフェで自習する姿を見かけていました。席数の限られている図書館は飲食の制限があり、お子さんたちにとっては、カフェのほうが居心地よく、集中できると感じているのではないかと思ったのが、きっかけです。



アクションに対する反応

集中できると口コミが広がる

開室時には、長時間集中して自習に取り組む高校生や、資格取得に励む大学生、そして地域の方にご利用いただいています。仕事等の書類作成や、ご自身の教養を深めるための学びとして、保護者の利用もあります。公共施設の掲示板や、SNS等でアクションを知っていただいての来訪が増えています。

アクションによる効果

応援や気遣いが生まれる温かい場所に

公共施設の一室での開催のため、通りがかった地域の方や保護者のみなさんが覗いてくださいます。また、開室場所となっている施設職員のみなさんにも「どうですか？」と様子を気にかけていただき、取り組みが、多くの方々と繋がる機会になっていると感じています。





くすのき KUSUNOKI

KUSUNOKI

主な事業：自習室としての子どもの居場所
所在地：小田原市中里273-6（川東タウンセンターマロニエ）
HP：https://instagram.com/kusunoki_ibasho



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R7年度事例●

こども食堂ポピー

https://wakabatusin.localinfo.jp/posts/56552964

若葉台初のこども食堂です。みんなで食べて笑って、幸せなひとときを過ごせる場所です。食事は５種類以上のメニューが入った心温まる定食スタイルとなっています。

取り組みのきっかけ

地域初のこども食堂をつくりたい！

若葉台にはこどもがたくさんいるにも関わらず、地域にこども食堂がなく、こどもに栄養のある食事を提供する機会が少ない状況で、既に設備が整っている地区センターと、活用できる補助金があったことをきっかけに始めました。



アクションに対する反応

食育にも力を入れ、「こどもによるこども食堂」へ！

商店街の店舗が減少する中、こどもにとって家族や友達と一緒に食事ができる場所ができてよかったです。ママさんからは、「ポピーがあって助かる」「美味しい」「自分じゃ作れないから嬉しい」と嬉しいコメントをいただいています。ポピーは食育も大切にしていて、「こどもによるこども食堂」を目指しております。「私も料理したい！」「食事を運びたい！」と、既にキッズスタッフにも参加してもらっています。

アクションによる効果

地域住民のやりがいと多世代の居場所づくり

ボランティアスタッフとして地域の方に参加いただいていますが、ほとんどが主婦の方なので調理は慣れっこです。ただ、家とは違って、誰かと一緒にキッチンに立って料理することや、メンバーも毎回少しずつ異なるため、毎回新鮮な経験となっています。こどもの居場所として始めたポピーが、地域の主婦の居場所にもつながっていて嬉しく思います。





こども食堂 ポピー

アイビス

主な事業：教育、人財育成
所在地：横浜市旭区若葉台3-4-2
HP：http://shizuka-web.s3-website-ap-northeast-1.amazonaws.com



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R7年度事例●

えのでん・えほんプロジェクト

https://www.odakyu.jp/group/brand/article/pickup-007/

江ノ島電鉄と鎌倉女子大学のコラボレーションで、児童学部児童学科の学生たちと、江ノ電極楽寺駅旧駅舎で、主に地域の０～３歳のお子さんを対象とした絵本の読み聞かせプロジェクトを毎月最終週の水曜日に実施しています。

取り組みのきっかけ

駅社員の声と産学連携からスタート

極楽寺駅の旧駅舎の有効活用を模索していたこともあり、駅社員の「子どもたちのために、駅で何かできることをしたい」という声を基に企画しました。また、地域との連携という側面から、産学連携プロジェクトとして鎌倉女子大学の皆さんと一緒に取り組んでいます。



アクションに対する反応

保護者の安心感とコミュニティづくりの場に

近隣地域の皆さまに限定したイベントとすることで、保護者の皆さまからは安心して参加できるイベントとして好評をいただいております。また、他に参加できるイベントが少ない０歳児からの参加にも対応していることも喜ばれております。こどもたちがリラックスして楽しく参加してくれるのはもちろんのこと、保護者の皆さまにとってはコミュニティ作りの場としても活用いただいております。

アクションによる効果

幅広い世代が一緒に楽しめるイベントに！

春・夏に実施している「えのでん・えほんプロジェクトスペシャルデー」では、極楽寺駅を飛び出し、地域の子育てセンターや寺院、飲食店などで大規模に開催することで、様々な方にご参加いただけるだけでなく、おもちゃ作りや体操など、プログラムの内容を拡充することで未就学児まで対象を広げ、幅広い世代が一緒になって参加できるイベントとなりました。





江ノ島電鉄株式会社

主な事業：鉄道事業を中心に、自動車事業、レジャー・サービス事業、不動産事業、マイクロモビリティ事業 等
所在地：藤沢市片瀬海岸1-8-16
HP：https://www.enoden.co.jp/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

ジュニアカフェつづき

中川駅前商業地区振興会の協力を得て、シェアリーカフェを「こどもの居場所～ジュニアカフェつづき～」として開放し、オンライン学習教材を活用した子どもの学習支援等を県と連携して実施しています。

取り組みのきっかけ

地域カフェを子どもの居場所に開放

I Love つづきでは、環境・防災・子育て・福祉・経済・地域振興など多様なテーマの方々とコミュニティを形成し、他の団体との連携して子どもを対象にしたイベントを実施しています。地域の居場所となるシェアリーカフェを子ども向けに開放することで、子どもへの支援をより強化したいと考えています。



アクションに対する反応

会話と食事を楽しむ時間、保護者からの安心の声

参加している子どもたちからは、「おしゃべりやみんなで食べるのが楽しい」と言っていただき、保護者の方からは「とても気に入っているようです」「楽しかったと言っています」という声をいただいています。
子どもたちが安心して楽しい時間を過ごすのが一番と考え、運営しています。

アクションによる効果

認知の向上と商店街との連携深化

今の場所にコミュニティカフェを運営し始めてから、4年目になりますが、初めて訪れた、こういう場所があったんですね、と言われ、近隣の方に知ってもらうきっかけにもなりました。商店街もチラシを置いてくれたり、看板に掲示してくれたりと、この取組を応援してくれ、より連携を深めています。







NPO法人 I Love つづき

主な事業：

所在地：横浜市都筑区中川1-17-22-402

HP：https://webyoko.com/ilt/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

子どもの居場所Tsubame

https://www.npo-woomoo.com/ibasyo

学校に行けない子、自分のペースでゆっくり勉強したい子…など理由は様々ですが、学校でもなく、家でもない、子どもたちが安心して過ごせる居場所「Tsubame」を運営しています。

取り組みのきっかけ

不登校に悩んでいる子に居場所を作りたい！

産まれる前から産んだあとまでの継続した支援活動を行う中で、特に学齢期以降の子どもたちへの手厚い支援や保護者支援の必要性を感じていました。地域の子どもたちの中に不登校に悩んでいる子が多かったことから、子どもの居場所事業に取り組み始めました。



アクションに対する反応

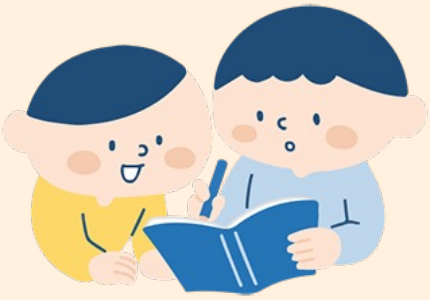
子どもの表情が徐々に変わり、保護者からも喜びの声

子どもが学校へ行き渋り、鬱と診断され悩んでいたところにTsubameに出会い、Tsubameに通う中で、暗い様子からだんだんと表情が変わり、友達ができ、自分が自分でいられる場所になり、５ヵ月後には徐々に学校に行けるようになったと保護者の方から喜ばれています。

アクションによる効果

地域を超えて広がる安心の居場所

当初は近隣地域の子どもたちが利用することを想定していましたが、常設で開所している居場所が少ないこともあり、横浜市内のあらゆる地域からの利用があります。課題を抱える子どもと保護者の安心した居場所になっていると感じています。





NPO法人WooMoo

主な事業：子育て支援、女性支援
所在地：横浜市南区三春台126
HP：https://www.npo-woomoo.com



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

夏休みにあつまーれ！

夏休み期間中の「こどもの居場所づくり」として、県・平塚市・藤沢市と連携し、子どもたちが午前中に3時間程度を過ごせるプログラムを実施しました。スポーツだけでなく、学びや食事の時間も設け、子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう工夫しました。

取り組みのきっかけ

子どもが安心して体を動かせる環境を

子どもたちが安心・安全にスポーツや運動、外遊びができる環境が少なくなってきているので、そういった環境を増やしていきたいと考えています。ベルマーレがハブになっていろいろな切り口で地域の方々と連携して活動を広げていければと考えています。



アクションに対する反応

「楽しかった」の言葉と保護者の実感

「楽しかった、また行きたい」といった声をたくさんいただきました。その中で「不安で行きたくないと言っていた息子が帰ってくると『楽しかった』とその日のことをたくさん話してくれました」といったコメントもいただき、子どもたちも楽しく過ごせたことをより実感しました。

アクションによる効果

異年齢・他者との新たな出会いと友達づくり

子どもはもちろん、保護者の方にとっても、この取組が意義のあるものであると手ごたえを感じました。
集まれる「居場所」を提供することで、子どもならではの柔軟性で、出会った子とすぐに友達になっていたということもありました。





SHONAN BELLMARE SPORTS CLUB

NPO法人 湘南ベルマーレスポーツクラブ

主な事業：

所在地：平塚市中堂18-8 E棟3F

HP：https://www.bellmare.or.jp/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

製品を活用した、こども食堂での食育活動

https://www.fancl.co.jp/clip/sdgs/2307-02/index.html

自社製品の発芽玄米やケールを活用した食育講座を、地域のこども食堂で実施しています。基本の栄養素や発芽玄米、ケールの栄養を楽しくクイズ形式で学び、その後、美味しく食べることで理解を深めています。

取り組みのきっかけ

NPOとの出会いから食育講座の実現へ

「かながわSDGｓパートナー」への参画をきっかけに、横浜市内のこども食堂を運営するNPOと出会い、子どもの食育や基本栄養の大切さ等を意見交換し、食育講座の実現につながりました。神奈川県での取組をきっかけに、他県での開催や他の企業との共同開催などが広がっています。



アクションに対する反応

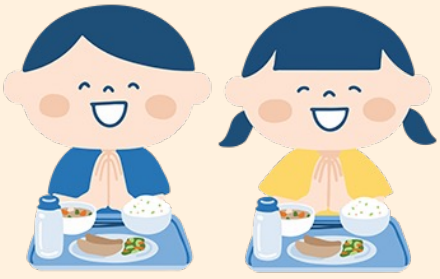
苦手な野菜も美味しく体験、保護者からも評価の声

「青汁は苦い、まずいというイメージがあったけど、リンゴジュースと一緒に飲むとすごく美味しくなった。野菜は苦手だけど、青汁は飲めたので良かった。」といった子どもからの声や、参加した保護者の方からも、「一緒に学べて有意義だった」といった声をいただいています。

アクションによる効果

従業員の意識向上と個人での地域貢献へ

従業員向けに県内の子どもを取り巻く状況やこども食堂について理解を深めるための研修を実施しました。
参加者からは、地域のこども食堂への参加やボランティアとしての関わりなど、個人としても地域貢献できる取組への参画意識がとても高まりました。





なにげない感動をずっと。
FANCL

株式会社ファンケル

主な事業：製造業（化学工業）
所在地：横浜市中区山下町89－1
HP：https://www.fancl.jp/index.html



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

コナミスポーツクラブでチャレンジしよう！

https://www.konami.com/sportsclub/corporate/topics/2024/09/30/

地域に展開するスポーツクラブとして、地域の子どもたちの「放課後の居場所づくり」を県と連携して実施しています。学校の宿題に取り組み、その後、思う存分体を動かす、普段できないスポーツに取り組む場の提供を行っています。



取り組みのきっかけ

運動能力向上の場を創出したい！

外で遊ぶ場所がなかなか無いと聞きますし、スポーツクラブのインストラクターを行う中で、子どもの運動能力の低下も感じています。また、子どもに指導する中でも、会話の中で「うんうん」しか返事が返ってこないこともあり、大人と接する機会が減っていると感じています。



アクションに対する反応

保護者からの感謝と安心の声

「普段、そんなにスポーツが好きではないですが、またやりたいと楽しんでいました。」「家の近くにこういった施設があって安心して子どもを行かせることができ、引っ越してきてよかった。」といったお声を保護者の方からいただきました。

アクションによる効果

企業イメージの向上を実感！

参加した保護者の方からのアンケートでは、当社へのイメージが参加前よりも変わったという回答が約67%ありました。今回の取組を通じて、地域の方と子どもの福祉や教育に関心を持つ機会が増え、施設の認知度も向上しました。





KONAMI SPORTS CLUB

コナミスポーツ株式会社

主な事業：

所在地：東京都品川区東品川4-10-1

HP：https://www.konami.com/sportsclub/corporate/ja/



居場所づくり・こども食堂

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

こどもスポーツDAY With F・マリノス

https://www.f-marinos-sportsclub.com/news/8047/

子どもたちが長期休暇（夏休み・冬休み）中に安心して過ごすことができる「居場所」を創出し、多くの仲間と共に楽しくスポーツ（サッカー）等を体験してもらうイベントを県と大和市と連携して取り組んでいます。

取り組みのきっかけ

共働き家庭の留守番時間に体を動かす機会を

最近は両親が共働きで子どもだけ留守番をしているという家庭も増えています。そこで、県や大和市と連携して、夏休みなど長期休暇中の子どもたちが留守番をしている時間に、友達と触れ合ったり、運動をする機会を作っています。



アクションに対する反応

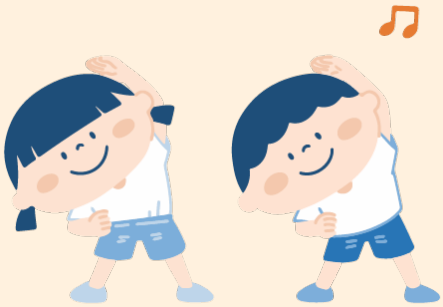
運動を楽しむ子どもたちと継続を望む保護者の声

普段サッカーをしていない子どもたちが、「空調の効いた体育館で思い切り体を動かせた」と言ってくれました。特に女の子たちが非常に運動を楽しんでいて、サッカーを好きになってくれたこと、また保護者の方から「もっとこういった機会を増やしてほしい」と言っていただけたことが非常に嬉しかったです。

アクションによる効果

誰もが体を動かせる場所づくりへの広がり

子どもたちの体力低下と、運動能力が二極化していると言われています。スポーツを文化として取り入れ、さらに高齢化の進む社会を迎えていくに当たって、子どもたちに限らず誰もが体を動かせる場所を増やしていきたいと考えています。





横浜マリノス株式会社
一般社団法人Ｆ・マリノススポーツクラブ

主な事業：
所在地：横浜市港北区新横浜2-6-3
HP：https://www.f-marinos-sportsclub.com/



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R8年度事例●

おかえりルーム

https://angelnursery-kashimada.com/

不登校や学校での生きづらさを感じる子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し、保護者への個別相談も行っています。一人ひとりの違いやペースを尊重し、誰もが自分らしく参加できる共生社会（インクルーシブ社会）の実現を目指します。

取り組みのきっかけ

誰もが輝けるインクルーシブ社会を目指して

子どもたちが不登校や人間関係の悩みなどに向き合う姿や、孤立する保護者を目にし、社会を幸せに生き抜くには、乳幼児期に「愛着関係」「自己肯定感」「助けを求める力」「多様性を認める力」という心の土台を育むことが不可欠だと確信しました。



アクションに対する反応

孤立感を軽減し、親子に「安心」を！

子どもたちからは、「安心して自分らしく過ごせる」と喜びの声が寄せられ、表情が明るくなったと感じます。保護者からは、「一人じゃないと思えた」「つながりを持てた」「具体的なアドバイスがありがたい」といった感謝の感想が多く、個別相談を通じて焦らず見守る前向きな変化が生まれています。

アクションによる効果

地域全体で「支えあう」体制づくりに前進

不登校などの悩みを家庭だけで抱え込まず、保護者同士が支え合う輪や支援機関とつながる体制が生まれています。子どもたちも、安心できる居場所や多様な大人との出会いを通じて自己肯定感や他者への信頼感を育み、復学やイベントでの活躍など、自分らしく一歩を踏み出しています。





株式会社フレーベルエジュケィション
エンジェルナーサリー鹿島田園
主な事業：小規模認可保育園
所在地：川崎市幸区鹿島田2-20-53 山崎ビル1階
HP：angelnursery-kashimada2.com



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

みんなでのびのび遊べる・つながる場　wacca

https://www.instagram.com/wacca1515/

障がい児・医療的ケア児、きょうだい児を含むご家族を対象に、横浜市都筑区にある港北幼稚園を貸切にして、家族みんなで公園に行くような気軽な気持ちでお出かけできる場所を目指して月１回、休日に開催しています。

取り組みのきっかけ

家族の実体験から生まれたのびのび遊べる場

主催者家族にダウン症児・心疾患児が産まれたことから、地域の幼稚園や保育園は誰でも入れる場所ではないことを知りました。この子たちが、好きなことを見つけたり、チャレンジできる場所を作りたい、そして保護者の方にはその姿を見て我が子の可愛さ、愛おしさをたくさん見つけて育児の喜びを感じてほしいと思っています。



アクションに対する反応

新たな発見と仲間づくりの拠点に

参加してくださるご家族の中には、障がいや医療的ケア・病気を受け入れられていない方もたくさんいらっしゃいます。そんな保護者の声を聞いたり、ほかの保護者と繋げたり、支えたいと思ってくれるボランティアさんがたくさん集まっている姿を見てもらうことで、少しだけ背中を押せる場所になっているのではないかと感じています。また我が子はこんなこともできたのか？！など新しい発見もたくさんある場所です。

アクションによる効果

障がいを超えた空間に全国から注目集まる!

障がい児・医療的ケア児・きょうだい児・ボランティアスタッフの子供たちなどが集うので、インクルーシブな場も出来上がっていることに気づきました。こどもたちが、好きなことに夢中になっている姿があるとどこに障がいがあって誰が医療的ケア児なのか、全く気にならない場所が出来上がります。現在では、全国各地の幼稚園や保育園の皆さんが視察に来てくださる施設となりました。





一般社団法人うるの木

主な事業：障がい児福祉事業・子育て支援イベント・講演の企画運営

所在地：横浜市都筑区早渕3-35-11

HP：https://urunoki-gia.com



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R7年度事例●

小学生向け福祉体験授業

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/orihime_collaborate.html

横浜市・川崎市内の小学生を対象に福祉車両・車いすの体験授業を実施しています。車いす体験授業については一般社団法人神奈川県自動車販売店協会と共催で毎年多くのこどもたちに体験いただいています。

取り組みのきっかけ

思いやりの心を育む福祉教育への想い

「次世代を担う子どもたちに福祉の大切さを伝えたい」という思いから開始しました。若い世代が「自分たちに今・これから何ができるか」を考えるきっかけとなり、他者に対する思いやりの心を持って行動できるようになってほしいとの願いが、取り組みを始める大きな動機となりました。



アクションに対する反応

自発的な学びへの発展にやりがいを感じています！

授業後、学校の先生方から「授業をきっかけに児童たちが福祉についての自己学習を始めるようになった」などのお声をいただいています。また、授業を受けた児童たちがメッセージを送ってくださったり、ご家族とトヨタハートフルプラザ横浜へ足を運んでくださるなど、授業を通じて福祉への興味関心や学習意欲が高まり行動の変容につながっていると感じています。このような反響を受け、活動の意義や、やりがいを深く実感しています。

アクションによる効果

地域学校からの依頼が増加！

福祉体験授業をきっかけに地域での認知度が高まり、近隣の学校から新たに活動依頼をいただく機会が増えました。現在は、横浜市内の小学校から正式な依頼を受け、参観日(地域フェス)において福祉車両の仕組みをこどもたちに説明・体験してもらう企画の準備を進めています。今後もこのような地域貢献活動の機会を増やしていきたいと考えています。





ウエインズトヨタ神奈川株式会社／
一般社団法人神奈川県自動車販売店協会

(ウエインズトヨタ)主な事業：新車･中古車の販売、自動車の整備･点検･修理、自動車関連部品や用品の販売 等
所在地：横浜市中区山下町33
HP：https://www.weins-toyota-kanagawa.co.jp/



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

ワクワクでつながろう!インクルーシブな遊び場づくり

https://www.laulea-linoa.com/

体験機会が少ない重度障がい児への機会創出と、インクルーシブ遊具を活用した出張遊び場を運営。障がいの有無に関わらず遊びを通した自然な交流を生み出し、それらが交わることで共生社会の土台をつくる取組です。

取り組みのきっかけ

病院からの依頼で始まった出張遊び場

病院からの「遊具を持って来て」という依頼が転機でした。長期入院している子どもたちに、普段できない揺れや跳ねる体験を提供すると素晴らしい反応があり、これが出張遊び場の始まりとなりました。取り組みが口コミで広がり、インクルーシブ移動遊園地などに発展していきました。



アクションに対する反応

笑顔あふれる体験と当事者の切実な声

インクルーシブ移動遊園地では「普段できない楽しい体験ができた」「遊具の上で良い顔をしていた」という喜びの声が多数寄せられた一方、「元気な子に混ざって遊びたい訳じゃない。安心して遊べる場がほしい」などの率直な意見もありました。マルシェで行ったイベントでは、話すことができない子が電車に乗って来てくれ、多様な人がいる場に出ることが貴重な経験となり、誰かの視界に入ることで存在を認識してもらう機会となっています。

アクションによる効果

インクルーシブコミュニティ形成の芽

活動開始から10年で、地域社会に多層的な変化が生まれています。放課後等デイサービスに通うこどもたちと地域の親子が同じ空間で遊ぶ光景が日常的になり、「遊び」を入口とすることで地域住民が障がいのある人を「支援対象」ではなく「一緒に楽しむ仲間」として自然に認識する変化が広がり、真のインクルーシブコミュニティ形成の土台が築かれています。





NPO法人 Laulea ラウレア

NPO法人laule'a

主な事業：障がい児通所支援事業、生活介護事業、移動支援事業、インクルーシブ遊び場事業 等

所在地：藤沢市辻堂西海岸2-10-3-1

HP：https://www.laulea-linoa.com/



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R7年度事例●

障がい児に多様な体験機会を届ける『みーぱのじかん』

https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000138559.html

社会課題解決を目的とする非営利スタートアップ助成プログラム「Soil x MUFG」に採択頂き、放課後等デイサービスに通う障がいのある子どもたちに多種多様な体験機会を提供する取組です。

取り組みのきっかけ

体験機会の格差解消を目指して

障がいのある子どもたちの体験機会は、指導者の知識不足や保護者側の遠慮などからさらに限られる傾向にあります。全ての子どもたちが多様な体験を通じて自分の『好き』を見つける機会を平等に得られる社会の実現を目指し、助成金や藤沢市放課後支援事業者連絡会にご協力頂きながら、取組を始めることができました。



アクションに対する反応

夢中になる子どもたちをみて、家族みんなが笑顔に

毎回、熱中して楽しそうに取り組む子どもたちの姿がみられます。保護者の方からは「新しい環境に戸惑いやすい子どもでもいつも通う施設内での活動は安心して取り組める」「重度の障がいがあると、移動が困難だったり習い事教室が受け入れてくれなかったりして体験機会が限られるが、普段通っている施設内で様々な体験ができることはとてもありがたい」といった喜びの声も頂き、家族みんなが笑顔になる機会になっています。

アクションによる効果

地域で子どもを支える動きが生まれる

今回の取組だけでも10事業所で、約500人の子どもたちに多種多様な新規体験を提供する見込みがあり、地域の専門人材が活躍できる新たな場が生まれ、地域活性に繋がっています。子どもをまんなかにして、家庭だけでなく地域全体で子どもを支えていく取組になっています。





株式会社meepa

主な事業：教育・学習支援業(子どもの体験機会提供)
所在地：中郡二宮町二宮884-1 エムビル2F
HP：https://meepa.io/



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R6年度事例●

発達性ディスレクシアを正しく知ってほしい

Instagram　@BAOBABSOOF_CHIGASAKI

発達性ディスレクシアに対する社会的な認知や理解は、現状ほとんど進んでいません。当事者への支援を行うと同時に、当事者の声を通して読み書きの困難さが、学習だけでなく日常生活にも大きな影響を及ぼすことを知ってもらうための講演会等を実施しています。

取り組みのきっかけ

当事者の声を通じて伝える大切さに着目

読み書きの苦手さのある発達性ディスレクシアの子どもと出会う中で、苦手なことが発達過程にあるものだと認識がされず、当事者の声も聞かないまま読み書きを強いられる現状に疑問を持ちました。当事者が自らの経験を自分の声を通して伝えることが大切だと考えたことから活動が始まりました。



アクションに対する反応

自分自身への理解を深め、学びへの理解と意欲を取り戻しています！

読み書きが苦手なことに対して、子ども自身が「自分はダメな子」と思い込んでいることが多いですが、客観的評価に基づく事実を伝えることで、自分自身への理解を深め、自分のやりやすい方を選んで、学びへの理解と意欲を取り戻しています。

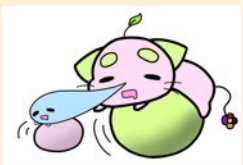
アクションによる効果

正しい理解、広まる

地道な啓発活動を続けてきたこと、時代の変化で社会の価値観が少しずつ変わってきたことで、「読めない書けない＝努力が足りない」という思い込みが誤りだと気づく人も増えてきています。







NPO法人発達サポートネット バオバブの樹

主な事業：保健・医療・福祉、社会教育、子どもの健全育成

所在地：茅ヶ崎市共恵1-8-18神崎ビル301

HP：https://baobab-chigasaki.org/



共生社会（インクルーシブ社会）

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

みんなの「たのしめてるか。」

共生社会の実現を目指し、障がいの有無に関係なく老若男女誰でも参加でき、イベントを通してみんなの「たのしめてるか。」を発見するきっかけづくりとなるようなイベントを、平塚市内の特別支援学校等と連携して開催しています。

取り組みのきっかけ

特別支援学校と地域をつなぐハブを目指して

湘南ベルマーレのクラブミッション「夢づくり、人づくり」と、チームのスローガン「たのしめてるか。」を掲げ、地域の小学校への巡回授業や地域活動を実施していましたが、平塚市内にある４つの特別支援学校と地域をつなぐためのハブを目指し活動を実施しています。



アクションに対する反応

壁を作らず理解し合える体験にこどもの笑顔が集まる

特別支援学校の子どもたちが、地域の子どもとふれあい、子ども自身が壁を作ることなく楽しめるイベントだと感じています。子どもたちがお互いを理解し、どう接するといいかを自ら考え、イベントが終わるころにはとても満足した顔になっているのがとても印象的です。

アクションによる効果

地域課題を解決できる環境整備が進む

湘南ベルマーレの持つ様々なステークホルダーと地域をつなぐハブ機能をINCLUSIVE HUB SHONANが持つことで、地域の困りごと・課題を一緒に解決できる環境が整い始めています。地域と共に進めることで、みんなの「たのしめてるか。」を実現していきたいです。





INCLUSIVE HUB SHONAN

株式会社湘南ベルマーレ
一般社団法人INCLUSIVE HUB SHONAN
主な事業：サッカークラブの運営
所在地：平塚市中堂18-8 E棟3階
HP：https://www.bellmare.co.jp/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R8年度事例●

メダカのフードBOX-24

https://medakabento.com/?p=5242

市内各所に設置した宅配ボックスで、24時間365日、必要な時に食品を受け取れる「メダカのフードBOX-24」。時間や距離、人目など食支援の壁をなくし、地域の店舗や企業と連携しながら、子どもと子育て家庭を地域全体で支える新しい食支援の仕組みです。



取り組みのきっかけ

「5つの壁」を壊す24時間受け取りへの挑戦

これまで子どもへの食・学習支援を行う中で、仕事や距離、情報不足、制度への不安、心理的ハードルといった「5つの壁」により、本当に支援が必要な家庭ほど孤立してしまう現状に気づきました。



アクションに対する反応

利用者が「支える側」へ！嬉しい変化を実感

「都合に合わせて利用できる」「人目を気にせず頼れる」と安心の声が届くなかで、最も大きな変化は利用者が「支える側」へ参加し始めたことです。サポーター募集には開始30分で6件の応募があり、「支援を受けるだけでなく役に立ちたい」「恩返しができて嬉しい」といった前向きな思いが寄せられました。

アクションによる効果

半年で14か所拡大!「地域再接続モデル」へ

食支援を入口に「支援する・される」の枠を超えた支え合いの循環が生まれたことです。企業や市民の協力が広がり、開始わずか半年で14か所（相模原市緑区の中山間地域含む）へ拡大。さらにLINEでの日常相談で必要な支援につなぎ、孤立を防ぎ誰もが役割を持てる「地域再接続モデル」として機能しています。





特定非営利活動法人 メダカのお弁当
お弁当提供型子ども食堂

特定非営利活動法人 メダカのお弁当

主な事業：子ども・子育て支援（NPO法人）
所在地：相模原市中央区相模原2丁目12番21号
HP：https://medakabento.com/



かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R8年度事例●

ホンモノに触れる学童保育プログラム

https://www.riq.co.jp/news20260625

専門家の協力のもと、スポーツ・科学・芸術・食育などの特別プログラムを定期的に実施。多様な「ホンモノ」に触れ、自分の楽しい・やりたい・大好きを見つけ、興味が広がる豊かな放課後を継続的に提供しています。

取り組みのきっかけ

子どもの「大好き」と可能性を伸ばしたい！

日々の保育の中で、初めての活動に目を輝かせたり、得意なことを友達に見せたりする子どもたちの姿から、放課後の時間には、一人ひとりの興味や可能性を広げる力があると実感しました。専門家の協力を得ながら、広く多様な体験の機会を継続的に提供しています。



アクションに対する反応

「またやりたい！」次の意欲を育む体験に

「はじめての空手道場」では、参加した子ども全員から「またやりたい」「楽しかった」といった声が寄せられました。そのほかのプログラムでも、「もっとやってみたい」「家でも試してみたい」といった声が聞かれます。体験した内容を友達に教えたり、関連する本を読んだりする姿もあり、新たな興味や次の行動につながっています。

アクションによる効果

学童の体験から図書館や地域との接点へ

多種多様なホンモノの体験を通じ、子どもたちの興味が次の行動へと広がっています。「季節を感じる紙芝居」の実施後には、物語に関心を持ち、地域の図書館へ足を運ぶ児童もいました。学童での体験が、地域の施設や人とつながるきっかけとなり、地域全体で子どもの育ちを支える取組につながっています。





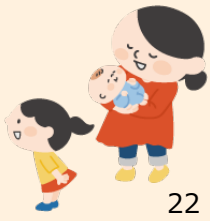
未来創造支援業R を追究する 株式会社 理究

理究グループ 株式会社理究キッズ

主な事業：学童保育

所在地：横浜市神奈川区金港町5-32ベイフロント2F

HP：https://riq-gakudou.com/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R7年度事例●

子育て応援団「小松菜プロジェクト活動」

https://h-k.yokohama/

「神奈川県産の小松菜」を中心に「地産地消、環境保全の魅力」を広く周知し、地域活性化に貢献することを目的とした活動をしています。食育や収穫体験などを通じた親子と農家との交流や多世代交流を促進することで、安心して暮らせる街づくりに寄与しています。

取り組みのきっかけ

小松菜で地域を元気にしたい！

都筑区が「小松菜」の主要な生産地であることに着目し、神奈川県の貴重な財産である「農作物の周知、地産地消、農業専用地域における環境保全の魅力」を親子を中心とした市民に啓発し、地域活性化、地域への愛着醸成、健康増進に繋げることを目指し活動を開始しました。



アクションに対する反応

貴重な収穫体験に喜びの声多数

農家との協働による「野菜の収穫体験」は今年12年目を迎え、毎回100名を超える親子が参加しています。参加者からは、「子どもが野菜の美味しさを知ることができた」「身近な農業専用地域で自然に触れることの喜びを親子で体感できた」「子どもにとってかけがえのない貴重な経験となった」等の声が多数寄せられております。

アクションによる効果

自然とのふれあいで多世代交流！

本活動を通じて、子どもたちは野菜畑や自然との触れ合いを深めることができます。また、「子どもたちの楽しい、美味しい、やりたい気持ち」を育み、高齢者や地域の大人も共に活動することで、多世代間の交流が生まれています。





NPO法人 H&K

NPO法人H&K

主な事業：親と子のつどいのひろば
所在地：横浜市都筑区茅ケ崎東3丁目26-2 201
HP：https://h-k.yokohama/



かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R7年度事例●

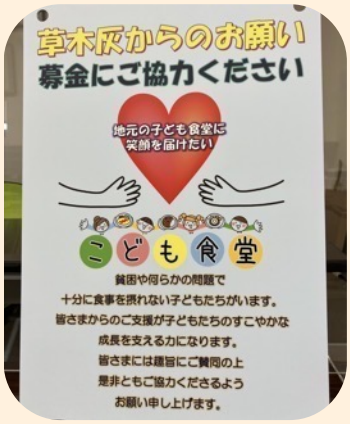
こども・子育て支援の為の募金活動

子ども食堂や障がい者支援施設等の現状を知り、弊社の３か所の営業所（茅ヶ崎・厚木・大磯）で募金を実施しており、来社されるお客様にも理解いただき募金をお願いし、各自治体や施設に寄付しています。

取り組みのきっかけ

企業の社会的責任として募金活動に着目

こども食堂の現状を知り、企業の社会的責任として何かできることが無いか検討した結果、自社での募金に取り組んでおり、自社の営業所に日々剪定枝を搬入される業者様や無料で提供している草木灰を取りに来られるお客様にも主旨を理解していただき募金協力をお願いしています。



アクションに対する反応

感謝の声が寄せられるようになりました

こども食堂を運営する施設に寄付金を持参すると運営管理者や保護者の方々、お手伝いをしている高校生や利用している子供たちから「ありがとうございます。」と感謝されます。寄付金を持参したときに映した写真を募金箱のところに掲載し、募金していただいた業者様や市民の方々に報告しています。

アクションによる効果

協力の輪が広がっていくのを感じています！

募金活動の主旨をご理解いただき、毎回募金をしていただく業者様も増えております。継続することが大事なことだと痛感しています。

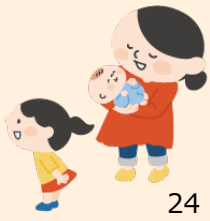




MIYAKO

株式会社都実業

主な事業：土木建設工事請負業、公共発生土処理事業、グリーンリサイクル事業
所在地：鎌倉市城廻640-3
HP：https://miyako-jitsugyo.com



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

こどもの発達と生活～今どきの小学生、今の小学校の取組～

https://www.kohoku-drop.jp/

横浜子育てサポートシステムの預かり手への普及啓発を含め、登録している預かり手や子育て世帯に向けて、現役の校長先生をお招きし、小学校の現状を知ってもらう講演会を行っています。

取り組みのきっかけ

学校現場の「いま」を知ってもらうために

横浜子育てサポートシステムの研修内容の一部を一般の方向けにも実施することで、預かり手候補のみならず、地域の方や小学生の子育て中の方など、多様な方に小学校の現状を知ってもらう機会を持てたらと、コロナ禍で学校見学が難しかった頃に企画しました。



アクションに対する反応

就学への安心感と深い学びを提供

いまのこどもたちがどんな風に日々を過ごしているか、校長先生のお話を聞くことで、子育て当事者からも就学への安心感が生まれたと感想をもらえました。また、学齢期のこどもの発達や様子を学べる機会は限られているため、小学生のサポートをしている預かり手の方々からもたくさんの学びがあったとの声をいただきました。

アクションによる効果

新たなサポート人材の発掘へ

市立小学校の校長先生のご理解とご協力の元、100名近い参加がありました。講演会を通して横浜子育てサポートシステムへの理解が深まったことで、小学生の保護者が新たな担い手となってくださり、現在もこどもが学校に行っている間に活躍してくれています。また、校長先生の話をきっかけに「学校支援員」のことを知り関心を持ち、協力してくださった方もいらっしゃいました。





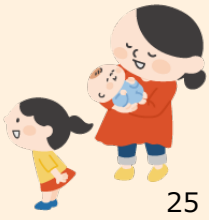
認定NPO法人 びーのびーの

認定NPO法人びーのびーの

主な事業：子育て支援事業

所在地：横浜市港北区大倉山3-57-3 港北区地域子育て支援拠点どろっぷ

HP：https://www.kohoku-drop.jp/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

体験を通じて育む子どもの未来

https://riq-gakudou.com　https://p-hoiku.com/

グループ内の幼児教育実績に基づいた子育て相談・遊び体験・食育イベント（離乳食試食など）を保育園で実施。学童保育では本物に触れる体験として、武道やスポーツ、演劇、自然科学などの専門家を講師に招き、充実した放課後を提供しております。

取り組みのきっかけ

利用者の声から食育体験イベントをスタート

地域の家庭教育支援として保育園での子育て相談・遊び体験を実施していたところ、参加者から「離乳食・幼児食についてもっと知りたい」とのお声をいただき、食育体験イベントを開始しました。「10年後も通って良かったと思ってもらえる学童保育」を目標に、専門家と連携して児童の興味・関心に応えるかたちでスタート。



アクションに対する反応

自主性を引き出すプログラムに高い満足度

保育園イベント参加者からは「食育に親子（両親）で参加できるのはうれしい」「早速自宅でも試してみます」「子育ての悩み、疑問などを話すことができる良い機会だった」などの声をいただき、子育て支援の一助ができていることを実感しています。“ホンモノに触れる”プログラムは「体験」「発見」「学び」の要素を含んでおり、体験を通じて子どもたちが自ら動く場となっており、保護者・児童ともに満足度の高い内容です。

アクションによる効果

子どもたちの「好き」との出会いを継続

地域の子育て家庭に、相談できる場所や親子で楽しめる保育園イベントを提供し、地域の子育て支援を続けることで、口コミで参加者が増えています。“ホンモノに触れる”プログラムの体験を通じ、子どもたちは自らテニスを始めたり、生き物に興味を持つなど、「自らが好きなもの」に出会うきっかけになっています。

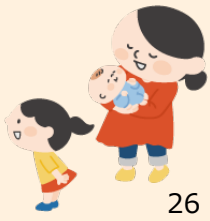




未来創造支援業を追究する 株式会社 理究

理究グループ（株式会社理究、株式会社理究キッズ）

主な事業：保育・教育サービス産業
所在地：横浜市神奈川区金港町5-32 ベイフロント横浜3F
HP：https://www.riq.co.jp/
https://www.riq.co.jp/organization/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

うむまえ、うむとき、うんだあと。

運営母体である「みやした助産院」をベースに、横浜市認可小規模保育園、横浜市補助事業親と子のつどいの広場などを運営しています。どのステージにおいても自分らしく前向きな気持ちで子育てができるよう、お母さんたちと一緒に伴走しています。

取り組みのきっかけ

母乳ケアから始まった小規模保育

助産院を運営する中で、延べ７万人のお母さんと母乳ケアを通じて接してきました。お母さんたちが笑顔でいられるために「母親支援の大切さ」を大切にしたいという思いから、母乳育児を続けながらでも預けることのできる小規模保育園を立ちあげたところから法人の活動がスタートしています。



アクションに対する反応

顔の見える関係が生む母と地域の絆

助産院で出産や産後ケアの時から関わることで、顔の見える関係が作られています。お母さん自身の悩みや家庭のことも安心して相談ができ、子どもが育っていく中で出てくる発達の悩みなども専門機関へ早期に繋ぐこともできました。地域のお母さんたちとのコミュニティを作ることができ、情報交換できるのもよい、との声をいただいています。

アクションによる効果

成長ステージに寄り添う継続的な支援

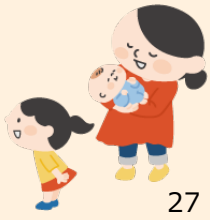
産まれるところから継続して支援をすることで、出産後の子育て時期にも関わることができ、子育ての様々なステージにおいて必要な支援が自然と行われています。特定妊婦支援事業や小学生の子どもの居場所もそうですが、母体となる助産院と連携をして、継続して支援が必要な家庭への早期の関係づくりも行うことができています。





NPO法人WooMoo

主な事業：子育て支援、女性支援
所在地：横浜市南区三春台126
HP：https://www.npo-woomoo.com



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

小田急の子育てしやすい沿線づくり

https://www.odakyu.jp/oyako/

小児IC運賃の低廉化や子育て応援車の導入、駅構内へのベビーケアルームの設置等、お子さま連れでの移動しやすい環境・沿線づくりを進めています。また、お子さま向けの沿線お出かけ情報や駅施設・サービスを紹介するサイト「FunFanおだきゅう」を運営しています。

取り組みのきっかけ

鉄道事業の強みを生かして挑む少子化対策

鉄道事業者だからこそできる少子化という社会課題への対応を、社内の有志と対話を重ね、子育てに関する価値観や違いを抽出し、2021年11月に「子育て応援ポリシー」として策定しました。このポリシーのもと、様々な子育て応援の取組を推進しています。



アクションに対する反応

全国初の小児IC運賃一律50円に大きな反響

子育て応援ポリシー策定後、2022年３月から小児IC運賃を全線一律50円とする小児運賃低廉化施策を行いました。全国初の取組でもあり、「運賃が安くて助かる」「外出の際の選択肢が広がる」といったお声など、大きな反響がありました。

アクションによる効果

駅を中心に地域と深まる連携

「子育て応援ポリシー」を掲げたことで、ポリシーに賛同いただいた沿線の自治体・企業との連携も増えています。また、駅を中心として、地域の保育園や小学校のお子さまに小田急を身近に感じ、楽しんでもらえるようなイベントも数多く開催でき、地域との連携がより深まっています。





思う 誰かを 今日も odakyu

小田急電鉄株式会社

主な事業：鉄道事業、不動産業、その他事業
所在地：東京都新宿区西新宿2-7-1
海老名市めぐみ町2-2(海老名本社)
HP：https://www.odakyu.jp/



かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

離婚後の子育てアプリraeru/ラエル

父母の離婚や別居が子どもにハンデとならないよう、離れて暮らす父母のコミュニケーションをサポートし、子どもの健全な成長に欠かせない継続的な養育費の受給と親子交流の実現を支援するアプリを運営しています。

取り組みのきっかけ

離れて暮らす親子の交流を支えたい

シングルファーザーが離れて暮らす子どもとの親子交流の日程調整に非常に苦労していると耳にしました。ボランティア団体での活動を通じて、父母間のコミュニケーションがうまくいかず、親に会えなかったり、養育費を受け取れていない子どもが多くいることを知りました。子どもたちの未来のため、この事業が必要だと確信し、子育てを応援するアプリを開発しました。



アクションに対する反応

アプリでコミュニケーション負担を軽減

アプリが父母のコミュニケーションを支援することで、子どもが親子交流を実現できるケースが多くあります。例えば、父母の不仲等を理由にお子さんや父母に会えないことに対して、ラエルを利用することで「コミュニケーションの負担が軽減された」という声をいただいています。

アクションによる効果

対話支援が子どもの利益を守る

離婚や別居後の父母が円滑にコミュニケーションを取れるよう支援することで、子どもたちが継続して両親と交流できる機会が増え、継続的な養育費の受給にもつながっています。父母のコミュニケーションをサポートすることで、子どもの利益にもつながる取組を行っています。





raeru

GUGEN Software株式会社
主な事業：ソフトウェア開発
所在地：横浜市西区浅間町1-4-3-402
HP：https://raeru.jp/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

お子さまと電車でのお出かけサポート

https://kids-keikyu.jp/

小児IC運賃を全区間75円均一（空港線は加算運賃25円）とするとともに、授乳室・ベビーカーレンタルスポットを駅構内に設置し、便利なサポートを進めています。また全駅改札での改札通過通知サービスを2025年春から開始します。

取り組みのきっかけ

子育て応援方針を策定！高める沿線の魅力

子育て応援機運を高める「京急グループ子育て応援方針」を京急グループとして策定し、小児用ICカードを利用した場合、京急線の運賃が全区間均一で75円となる取組をスタート。将来を担うお子さまや子育て世代の負担軽減とお出かけを促進するために様々なサポートを実施し、魅力ある沿線開発に繋げています。



アクションに対する反応

親子のお出かけサポートに感謝の声

お客さまからは「子どもと電車に乗りやすくなってありがたい」「お出かけの計画を京急沿線で立てています」といった嬉しいお声をいただいています。また、授乳室も、「電車利用する際に便利になってありがたい」といったお声をいただいています。

アクションによる効果

小児利用が増え、メディアも注目

小児ICカード運賃が均一化されてから、小児ICカードでのご利用者が増えています。 また、授乳室やベビーカーなどの取組をメディアでご紹介いただくなど、注目されていると感じており、温めればそのまま食べられる夕食セットを販売する「子育て応援自動販売機」では売り切れも発生するなど、売れ行きも好調です。





KEIKYU 京急電鉄

京浜急行電鉄株式会社

主な事業：交通事業

所在地：横浜市西区高島1-2-8

HP：https://www.keikyu.co.jp/company/outline.html



かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

東横線一部車両の車内ラッピング

https://www.tokyu.co.jp/information/list/Pid%3Dpost_54541.html

東横線の一部編成の５号車に、「東急線キャラクター　のるるん」とキッズ向けYouTube「クマーバチャンネル」がコラボレーションした車内ラッピングを行っております。＊2025年9月まで

取り組みのきっかけ

楽しい車内空間で安心の電車移動を

お子さまに人気のある「のるるん」と「クマーバチャンネル」のキャラクターたちが楽しくお出かけしている車内ラッピングを実施することで、ベビーカー利用や小さなお子さま連れのお客さまの外出への心理的負担を軽減し、安心して気兼ねなく電車を利用できる環境づくりを行うこととなりました。



©Kumarba Inc.

アクションに対する反応

動画の世界を体感！電車でお出かけの楽しさ伝わる

車内ラッピング車両の展開にあわせ、電車に乗っておでかけする楽しさを訴求するべく、YouTubeで動画を公開したところ、視聴者から、「動画の世界観そのままに電車に乗れる環境があることは嬉しい」などとSNSを中心にコメントをいただいています。

【東急線キャラクター「のるるん」コラボ】お友達と大冒険 電車でお出かけしよう♪

【でんしゃ・のりもの】https://youtu.be/StBCKZMT7-M?si=lh2Om_lR2np9tNxq

アクションによる効果

動画で育むマナー向上と地域活性化

YouTube動画では、電車内でのマナーについても公開しており、延べ６万人の方にご覧いただいています。

動画の視聴を通じて、電車内のマナーの向上や、外出促進による地域活性化にも繋がっていると感じています。





東急電鉄

東急電鉄株式会社

主な事業：鉄軌道事業

所在地：東京都渋谷区神泉町8-16

HP： https://www.tokyu.co.jp/railway/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

東急線キッズパス

https://www.tokyu.co.jp/company/news/list/Pid%3Dpost_53501.html

小学生以下のお客さまを対象に、東急線全線が100円で１日乗り降り自由になったきっぷを土休日限定で販売しています。「お得に乗車できて嬉しい」などの声を子育て世代のお客さまからいただいています。

取り組みのきっかけ

キッズパス通年販売で子育てを応援

沿線内での移動の活性化を目的に、2022年夏に「東急線キッズ100円パス」を期間限定で販売し、多くのお客さまにご好評いただきました。2024年3月からは、「東急線キッズパス」を土休日限定で、通年販売を開始し、より多くの子育て世代のお客さまにご利用いただけるようになりました。



アクションに対する反応

お得がうれしい！遠くへ出かけるきっかけに

子育て世代のお客さまから、「お得に乗車できて嬉しい」、「子どもが3人いるので嬉しい」、「東急線キッズ100円パスのおかげでちょっと遠くに出かけてみようと思える」などの声をいただきました。

アクションによる効果

途中下車も増加。鉄道利用の楽しさを再確認

2022年夏の期間限定販売でのお客さまアンケートでは、約20%が「『東急線キッズ100円パス』をきっかけに鉄道を利用した」と回答したほか、途中下車が増え回遊性が増したことで地域の活性化に繋がっています。





東急電鉄

東急電鉄株式会社

主な事業：鉄軌道事業
所在地：東京都渋谷区神泉町8-16
HP： https://www.tokyu.co.jp/railway/



こども・子育て応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

横浜線車両優先席付近のフリースペース利活用

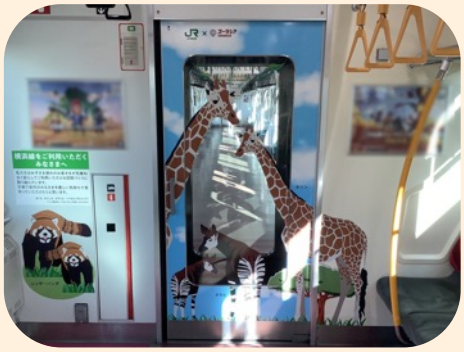
https://media.jreast.co.jp/articles/2506

安全なベビーカー利用に関する理解促進やベビーカーマークの啓発、保育園等での出前授業を通じて、子育て世代がより安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。また、横浜線では車内のフリースペースに動物のラッピング装飾を実施しています。

取り組みのきっかけ

安心で楽しい鉄道利用を促進したい

横浜線沿線の保育園等に出向き、子育て世代の方々と関わる中で、子育て世代のみなさまに、安心して楽しく鉄道をご利用いただきたいという想いから、よこはま動物園ズーラシアと連携し、動物をデザインしたラッピング装飾を横浜線（１編成の１号車と８号車）の車内で実施しました。



アクションに対する反応

ズーラシアと届けた子どもたちの笑顔

横浜線のラッピング装飾については、実際に乗車したお子さま連れのお客さまから「ラッピング車両に乗れると、子どもがとても楽しそうだった」といったお声をいただいています。小さなお子さま連れのお客さまを中心に、多くの方に知っていただき、ご利用いただけると嬉しいです。

アクションによる効果

ベビーカー利用への理解の深まりに期待

この取組を通して、ベビーカーでの利用についてお客様の理解やご協力が進み、車内のフリースペースの認知度が向上することを期待しています。
みなさまが安心して鉄道をご利用いただけるよう、引き続き、進めていきたいと思っています。





JR東日本

東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社

主な事業：旅客鉄道事業
所在地：横浜市西区平沼1-40-26
HP： https://www.jreast.co.jp/



こども・若者主体のアクション

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

夢講話（Yume Project）

https://koikesetsubi.com/blog/blog054.html

キャリア教育の一環として、職業講話とキャリア学習を行っています。自分の人生を自分で設計し、デザインしながらマネジメントするマインドを醸成をしています。

取り組みのきっかけ

なりたい自分を叶えるキャリア教育を

小池設備の理念は「夢を叶える企業になる」です。「働くこと」はゴールではなく、なりたい自分になるツールの１つと考えています。そのようなマインドを子どもたちに還元し、醸成することで、なりたい自分ややりたいことを叶えられる主体的な力と自走力を育成できるように設定しています。



アクションに対する反応

夢を伝えあい深まる絆と自己理解

思考をめぐらし、とても自由な発想がたくさん出てきます。お友達の夢を聞くことで、「それいいね！」「自分もやりたいな」とわくわく感が増えている様子が伺えます。身近な大人である先生にも夢ややりたいことを聞いてみると、それもまた自由で「先生、そういうことがしたいんだね」「できると思うよ！」などいっそう絆が深まり、新たな交流が生まれています。一方的な講話にせず、アウトプット中心で自分自身と深く向き合える時間になっていると感じています。

アクションによる効果

人生を切り開く力を応援しあう

答えが１つでない時代に、自ら課題解決をし、自分で自分の人生をマネジメントできる勇気づけとなっていると感じます。また、お互いの夢ややりたいことを知ることで、応援し合う風土をつくりあげています。ファシリテーターの私達も気づきや得るものが多く、お互いに学び会える環境になっていると感じています。





夢を叶える企業になる 小池設備

株式会社小池設備

主な事業：給排水工事、空調衛生設備工事、上下水道引込工事、水道本管工事、水回りリフォーム、修理

所在地：相模原市南区西大沼1-18-2

HP：https://koikesetsubi.com/



こども・若者主体のアクション

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R7年度事例●

ミニヨコハマシティ

https://minicity-plus.jp/

公募で集まったこども市民が選挙で選ばれた市長を中心に準備会議を行い、数日間のまちを開きます。当日訪れたこどもたちは市民登録し、働いて「ミニヨン」を稼ぎ、遊んだり、買い物したりして過ごします。大人は裏方でサポートに徹します。

取り組みのきっかけ

主体性を育む横浜版「こどものまち」を

ドイツの取り組みに感銘し、日本ではじまった「こどものまち」の横浜版として、行政職員や研究者、NPOなどが研究会を作り、2007年から実施しています。以来、毎年実施しており、こどもの主体性を大切に、「自治」「政治・選挙」「経済」「まちづくり」などが盛り込まれたこどものまちづくりイベントです。



アクションに対する反応

子どもだけで創り出す夢中と感動

運営市民のこどもからは、「こどもだけでつくることが楽しい。一日があっという間」「みんなで選ぶ市長選挙もドキドキした。大人と同じ投票箱に感動した」、当日参加のこどもからは「本物のまちと同じようにこどもだけでお店をやっていてびっくりした。来年は準備の市民になりたい」「大人が入れないのが口出しされなくてよい」、保護者からは「1時間くらいで飽きて戻ってくるかと思ったら、まちに入っていったっきり最後までもどってこなかった」などの声がありました。

アクションによる効果

育った子が模範となり高まる自治意識

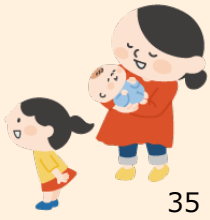
小学生から参加していたこどもが大人になり、NPO法人ミニシティ・プラスの会員や理事になって団体を支えてくれるようになり、ミニヨコの先輩としてこどもたちの憧れの「ロールモデル」となっています。ミニヨコでの投票率は80～90%。こどもたちに聞くと「大人になったら必ず選挙にいく」と言い、自分達のリーダーを選挙で選ぶことの大切さを理解しており、まちづくりに関心を持つこどもが確実に増えています。





認定NPO法人ミニシティ・プラス

主な事業：こどもの地域参画推進
所在地：横浜市都筑区中川1-17-22-402
HP：https://minicity-plus.jp/



こども・若者主体のアクション

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R6年度事例●

青葉おばけやしきプロジェクト

https://aobaschoolsupport.net/obakeyashiki/

地域に『おばけやしき』をつくる世代間交流のあるまちづくりを行っています。企画･制作･運営を小学生以上の全世代で行う夏の居場所で、子どもたちは将来の自分を見るように一年一年成長を遂げています。

取り組みのきっかけ

世代を超えた「つながりづくり」を

年長者と一緒に取り組める活動として、2009年から夏休みのおばけやしきづくりを始めました。小中学生の時に参加した子どもが、高校生・大学生の時には参加者の中心となって活動を牽引し、社会人になると子どもたちの自主的な活動を支える側に回るほど、一人ひとりの人生の中で長い時間を占める大きな取組となっています。



アクションに対する反応

熱中体験が育む成長と思いやり

活動中の熱心さはもとより、自宅にいる時も小道具づくりやおばけ役の衣装、おどかし方を考えて熱中する子どもたちの様子が、度々保護者の方から伝えられます。はしゃいでいた小学生が中学生になった時に、小学生の安全を考慮する意見を述べるようになって成長を感じました。

アクションによる効果

地域で育む子どもまんなかのまち

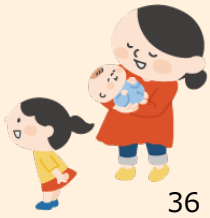
活動当初から、地域に開いた活動として地元の商店等へのチラシ掲示、寄付、制作のお手伝い、働く体験の場の提供など、多大な応援をいただいてきました。
活動を通して子どもと地域の大人のつながりが深まり、子どもがまんなかにいるまちづくりになっています。





NPO法人あおば学校支援ネットワーク

主な事業：社会教育
所在地：横浜市青葉区奈良4-1-1 B-106
HP：https://aobaschoolsupport.net/



こども・若者主体のアクション

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

こどもデザイン体験

https://www.instagram.com/coanna.me

子どもたちのクリエイティブな芽を、Tシャツやバッグとして形にする特別な体験です。親子別室参加にすることで、はじめから最後まで楽しみながら、自分で考え、やりきる経験をすることができます。

取り組みのきっかけ

子どもの主体性を育みたい

保育士として働いていた際に、子どもがやりたいことができたり、自分自身で考え解決することで、子ども自身が大きな力を発揮する姿を見てきました。しかしながら、自分が親になった時にはそういった経験を十分にさせてあげられないという葛藤を抱えました。子ども自身が考え、決定しカタチにする機会が少ないと感じたことから、起業し、現在取り組んでいます。



アクションに対する反応

離れて見守る子どもの新たな姿

参加した子どもが楽しそうに考える姿・真剣に取り組む姿が見られます。また、保護者からは、「子どものやることに、しない方がいいと思いながらも、子どもの行動に口出ししがち。部屋を完全に分けられたことで、いつも見ることのできない子どもの姿を見ることができた。」といった声をいただいています。

アクションによる効果

『孤育て』に寄り添い育む「大丈夫」

保育士の経験からも、『孤育て』や『こどもの人権』などの社会的課題に対し、個々のケースや想いに寄り添いながらできるイベント運営をしており、「自分の子育て大丈夫」と思えるような意識や考え方の転換を実感していただいています。

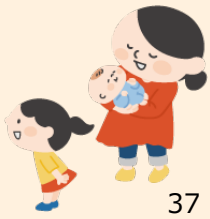




Coanna

株式会社Coanna

主な事業：こども向けイベント事業、物販
所在地：横浜市西区平沼1-40-1 嶋森ビル8階
HP：https://coanna.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R8年度事例●

絵本とつながる親子体験イベント

https://www.instagram.com/ehontokosodatelab/

秦野市内で、絵本の読み聞かせに、ふれあい遊び・感触遊び、季節のクラフトづくりなどを組み合わせた親子イベントを定期的に開催しています。絵本の世界を実際に手を動かしながら楽しく体験できるプログラムです。

取り組みのきっかけ

親子に絵本を通じた「幸せな時間」を

「本の中の世界」と「今ここにある体験」を結び、絵本の世界を実際に手を動かして感じられる場を地域に作りたい、また、日々の子育てに向き合う保護者が子どもと一緒に絵本を開いて笑い合える「幸せな時間」を届けたいという思いから、この取組を始めました。



アクションに対する反応

保護者の皆さんから嬉しい声が寄せられています

参加した保護者からは、「親子で楽しい時間を過ごせた」「うちの子はまだ絵本を読めないと思っていたけれど、我が子が集中して見ていてびっくりした」といった声が寄せられています。また、イベントで配布した絵本リストを見て「自宅でも読んでみます」という声も多く、親子で絵本を楽しむきっかけになっています。

アクションによる効果

おうち時間にも広がる親子の笑顔と絆

イベントで紹介した絵本を実際に購入し、自宅で読み聞かせをしているという声が聞かれるなど、家庭の中で親子が絵本を楽しむ時間が広がっています。繰り返し参加してくれるリピーターの親子も増えており、地域の中で絵本を通じた親子のつながりが少しずつ育っています。





絵本と子育てラボ

主な事業：子育て支援（任意団体）

所在地：

HP：https://www.ehon-hoikulab.com/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R8年度事例●

地域の職場体験の受け入れ

https://www.instagram.com/?hl=ja

地元の小学生を対象に社会科見学の受け入れを実施しています。自社車両での死角体験による交通安全啓発をはじめ、積み込み作業の動画鑑賞や質疑応答を交えた解説を行い、暮らしを支える輸送・物流の仕組みを体験的に学べる機会を提供しています。

取り組みのきっかけ

地域の小学校からの相談から

地域の小学校から職場体験の受け入れについてお話をいただいたことがきっかけです。会社として地域のためにできることを模索していたため、お受けすることになりました。



アクションに対する反応

感謝の声が続々寄せられています！

「普段乗れない車両に乗れる貴重な体験と、死角という普段意識できないことを認識できる機会を体験できてよかった」「説明もわかりやすく、ためになった」とのお声をいただきました。「将来ドライバーになりたい！大きくなったらここで働いていいですか？」といった嬉しいコメントも寄せられました。

アクションによる効果

会社への理解も深まり、社員にも嬉しい効果

職場体験に参加した生徒の中に社員の子どもがおり、家庭での会話のきっかけや父親の仕事の理解につながったという声がありました。会社近辺で走行している際も、小学生から手を振ってもらうなど、親しみを感じてもらえるようになりました。





KANEYA SHOUN

株式会社金谷商運

主な事業：運送・製造

所在地：座間市ひばりが丘5-23-6

HP：http://www.kaneya-s.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R8年度事例●

クラフトビールペーパーでアップサイクルワークショップ

https://note.com/kitafukupj

クラフトビール醸造で出るモルト粕をアップサイクルした再生紙を使い、商業施設やイベントでオリジナルノート作りなどのワークショップを開催。こどもが楽しみながら資源循環を学べる体験を提供しています。

取り組みのきっかけ

こどもの笑顔生むSDGsを目指して試行錯誤

横浜市のSDGs認証制度「Y-SDGs」イベントでワークショップのご相談をいただいたことがきっかけです。こどもたちに楽しんでもらえるよう、クラフトビールペーパーを使ったお絵描きなど様々な形を試行錯誤。改善を重ね、現在のプログラムへ発展しています。



アクションに対する反応

白いクレヨンで描く！親子で夢中の紙アート

こどもたちは純粋に夢中になって手を動かしてくれます。親子で作品をつくる姿も多く、お子さま以上に大人が真剣に取り組む場面もありました。茶色のクラフトビールペーパーならではの、白い紙ではできない表現を楽しむ様子が印象的です。完成した作品を手にした誇らしげな表情も、毎回の励みになっています。

アクションによる効果

大人の意識も変化！地域を越えて関心広がる

保護者の方がクラフトビールペーパーそのものに関心を持ち、「自社の本業に活かせないか」とご相談をいただく事例も増えています。ワークショップが親世代へアップサイクルや資源循環を伝える貴重な接点となりました。他の自治体等から実施を相談される機会も増え、地域を越えて広がりを見せています。





kitafuku

株式会社kitafuku

主な事業：情報通信業、アップサイクル再生紙の製造・企画・販売

所在地：横浜市西区みなとみらい3-7-1 WeWorkオーシャンゲートみなとみらい

HP：https://kita-fuku.com/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R8年度事例●

こども仕事体験フェスタin横須賀・三浦

横須賀市および三浦市における人口減少や少子高齢化、こどもの貧困問題といった地域課題の解決を目指し、子どもたちに仕事体験のイベントを提供しています。仕事体験を通じて、こどもたちに地域の魅力を知ってもらうとともに、体験格差の解消を図ります。

取り組みのきっかけ

沖縄での実績を全国の地域支援へ！

損害保険ジャパン株式会社では、地域貢献の一貫として2022年に沖縄県で初めて「こども仕事体験フェスタ」を開催し、高い評価を得ました。その後全国各地で実行委員会を立ち上げ、同イベントを開催しています。



アクションに対する反応

満足度97%！将来の夢と意欲を育む場へ

参加したこどもたちのうち97%は「楽しかった」「また参加したい」とアンケートに回答。また「未来のやりたい仕事が増えた」などの声をいただきました。保護者も90%が「こどもたちが未来に向けて高い志を育むイベントだと思う」と回答。「こどもにとって今後の人生のためになったのではないか」などのお声もいただきました。

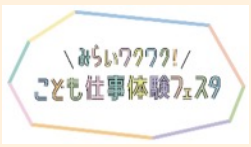
アクションによる効果

出展企業・社内からも高評価！

出展企業からは、「こどもたちから率直な意見を聞ける貴重な機会になった」「職業体験を通して企業の存在や事業を認知してもらえた」といった感想をいただきました。社内（弊社内）からも「ぜひ他の地域でも開催したい」という積極的な声が多数上がっています。







こども仕事体験フェスタin横須賀・三浦実行委員会（事務局:損害保険ジャパン株式会社）

主な事業：損害保険業
所在地：横浜市中区山下町33-5F
HP：https://www.sompo-japan.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R8年度事例●

「食」と「農」の繋がりを感じる農作業体験

https://livelyjp.com/project/14/　　https://www.youtube.com/watch?v=x1BVjZ_-v3g

2025年10月以降、神奈川県藤沢市の「特定非営利活動法人ma,icca!!にこにこ農園」さんと共催で農作業体験を継続的に実施しています。子どもたちが自然の循環を肌で感じ、「食」と「農」のあり方を対話する機会を創出しています。

取り組みのきっかけ

子どもたちの「体験格差」を解消したい

企業として食や自然と触れ合う重要性を感じる一方、家庭の経済状況や地理的環境による子どもたちの「体験格差」を課題と認識していました。そこで、「にこにこ農園」（藤沢市）と連携し、自然の循環を活かした農作業体験イベントを開始しました。



アクションに対する反応

夢中で楽しむ子どもと広がる親子の対話

参加者からは、「畑で育てるのも楽しかった！」「巨大ミミズなど初めての体験ばかりで面白かった！」と喜びの声が上がり、農作業や生き物観察に熱中する姿が見られました。また、自分の役割を意識して主体的に動く様子も印象的でした。「食べ物の循環について親子で話すきっかけになった」と家庭での対話にもつながっています。

アクションによる効果

高い満足度！五感の学びから地域交流へ

参加者アンケートでは「満足」以上が100%（うち「大変満足」90%以上）と回答。貴重な土や自然との触れ合いを通じ、五感からの学びを促進できただけでなく、準備や食事を幅広い世代で共に行うことで、地域コミュニティの活性化や新たな交流の芽を育むきっかけとなりました。



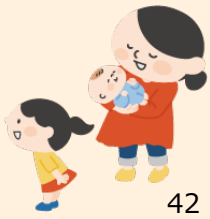


Lively合同会社

主な事業：教育・人材育成、官民連携、コンサルティング

所在地：千代田区丸の内3-2-2 丸の内二重橋ビル2階

HP：https://livelyjp.com/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

湘南アイパークフェスタ

https://www.shonan-ipark.com/iparkfesta2025/

湘南アイパークに拠点を置く企業・大学などがサイエンス体験型プログラムを企画しています。サイエンス体験や研究者との交流を通じ、ライフサイエンス分野への関心と学びを促進します。

取り組みのきっかけ

最先端の体験で届ける科学の面白さ

湘南アイパークはライフサイエンスの研究開発拠点として、多数の企業や大学、研究者が集まる場です。最先端のサイエンス体験やアイパーク研究者との交流を通じ、地域の方々、特に子どもたちに科学の面白さを体感してもらう機会をつくりたいとの思いから、2023年からスタートしました。



アクションに対する反応

研究者との交流で広がる将来の夢

ぬりぐすりを模したクリームづくりや香水づくり、電子顕微鏡による観察など、“自分の手で体験できる”ことに子どもたちは目を輝かせ、夢中になって取り組んでいました。保護者からは「普段は触れることのない最先端の科学を子どもと一緒に楽しめた」「将来の職業選びの視野が広がった」といった声が寄せられました。学生研究発表会では、発表した高校生・大学生からも「専門家から直接フィードバックをもらえる貴重な機会だった」との声があがり、来場者からも「同世代の挑戦に刺激を受けた」との反応がありました。

アクションによる効果

地域を結び高まる教育と文化の発信力

湘南アイパークフェスタは地域住民と企業・大学がつながる場として定着し、毎年多くの家族連れが訪れる人気イベントとなっています。出展団体同士の新たな連携や、企業・大学が地域貢献の一環としてサイエンス普及に取り組む機運も高まりつつあります。また、学生研究発表会を契機に、他地域からの来訪者も増え、湘南地域における教育・文化の発信力向上にも寄与しています。





アイパークインスティチュート株式会社

主な事業：サイエンスパーク運営事業
所在地：藤沢市村岡東二丁目26番地1
HP：https://www.shonan-ipark.com/company/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

「ネジロボ」活動

https://www.instagram.com/oohiro_official/

子どもたちに、ものづくりの楽しさ体験しながら自由な発想も育んでほしいと思い始めた活動です。廃材となる木やネジなどを使っており、環境について考えるきっかけにもなると考えています。

取り組みのきっかけ

廃材活用でものづくりの楽しさ伝える

子ども達にものづくりの楽しさを知ってもらうことで、将来の製造業従事者の増加につなげたいと思い、廃棄する配線や不動在庫のネジ等を活用した「ネジロボ」活動を企画しました。また、多様性や個性を尊重するダイバーシティの考えを取り入れ、あえて作り方を決めず、「みんな違ってみんないい」というメッセージを込めました。



アクションに対する反応

作れた自信と知る子どもの新たな一面

同じようなパーツでもそれぞれに仕上がりが違うため、自分だけのロボットができたと喜んでいただいています。作品を誇らしげに見せてくれる子も多く「自分で作った」ということが「できる」という成功体験になっているのを感じています。保護者は、自分の子どもの豊かな発想やドライバーなどを上手に使う姿を目にし、日常生活ではわからなかった子どものもつ一面に驚かれる方もいます。

アクションによる効果

地域連携で発信する製造業の魅力

一般社団法人はてなボックスと協働、相模原市の木材を使用、といった市内企業との異業種連携ができました。ケーブルのカットなど一部の準備は地域の福祉作業施設にも業務委託しています。また、相模原市はロボット特区でもあり「ネジロボ」活動で市内の主要産業に製造業があることを広く知ってもらうきっかけになっているのではないかと思います。





大浩グループ（株式会社大浩）

主な事業：製造業

所在地：相模原市南区麻溝台1-6-13

HP：https://www.oohiros.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

寒川小学校工場見学・寒川中学校職場体験

本社がある高座郡寒川町の寒川小学校の工場見学及び寒川中学校の職場体験の受け入れを行っています。職場体験では、自動車内装部品の工場で、縫製ラインや梱包作業等を体験してもらったり、成形機で部品が取り出されるところを見てもらったりしています。

取り組みのきっかけ

現場体験で伝えるモノづくりの魅力

未来を担う小・中学生のみなさんに、普段の生活では触れることのないモノづくりの現場や部品ができる工程を、実際に見て、経験してもらうことで、社会を支えるモノづくりの素晴らしさを感じてもらいたい、という思いから、小・中学校の児童・生徒の受け入れを開始しました。



アクションに対する反応

小・中学生の気づきが従業員の活力に

工場見学に参加した小学生のみなさんからは、「勉強になった」「クルマが好きになった」「どうやってドアができるかわかった」等々たくさんの感想をいただいています。また、職場体験に参加した中学生のみなさんからも、色々な気づきをいただき、それらの一つひとつに、交流させていただいた従業員も元気をもらっています。

アクションによる効果

安全確保への意識、さらに向上

参加した小学生・中学生のみなさんには、モノづくりの楽しさを少しでも感じていただければと思っています。また現場の社員も、小・中学生のみなさんを受け入れる経験を通して、子供たちの安全確保やわかりやすい説明の工夫等、新しい気づきや学びがありました。これからも、地元の小・中学校の工場見学・職場体験を積極的に受け入れて、将来を担う児童・生徒のみなさんに、モノづくりの素晴らしさを伝えていきたいと考えています。





河西工業株式会社

主な事業：自動車内装・外装部品の製造・販売及びこれに付帯する一切の事業
所在地：高座郡寒川町宮山3316
HP：https://www.kasai.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

オーガニック農場で農業体験

https://icas-organic.co.jp/icas-pick-up/food-education/

オーガニック農場で農業体験ができるイベントを月１回開催しているほか、繁忙期には不定期で収穫体験を実施しています。季節の野菜を自分で収穫して食べることで、農業の大切さを実感できます。

取り組みのきっかけ

お客様の声から始まった子どもの農業体験

「未来の地球と子どもたちのために」というメッセージを掲げて、オーガニック農業に取り組む『いかす』では、常に「子どもたちにどんなことができるか」を考えています。その中で、日頃野菜を食べてくださっているお客様から、「子どもたちに農業を体験させたい」というご要望をいただき、2024年からスタートしました。



アクションに対する反応

野菜嫌い克服から広がる野菜への関心

参加した子どもたちの保護者の方からは、「子どもの野菜嫌いがなくなった」「残さず食べるようになった」といった、食生活の変化が感じられたという感想だけではなく、スーパーマーケットで「そろそろトマトが美味しい季節だね」と、野菜の季節がわかるようになったり、畑の前を通りかかると「これは玉ねぎの畑だ！」と葉っぱで野菜がわかるようになったりと、野菜への関心度が高くなったという話もありました。

アクションによる効果

身近な畑で学ぶ食育で意識向上

都市部に住んでいる子どもたちにはなかなか自然と触れ合う機会がない中、比較的アクセスが容易なエリアにある畑で気軽に遊んでもらうことで、日頃から食べている野菜の大切さや地産地消の意義を理解してもらうなど、食糧問題への意識向上に繋がっています。また、スタッフからは「自分たちが育てた野菜を食べて笑顔になっている子どもたちを見てモチベーションが上がった」といった声が出るなど、内外で相乗効果が生まれています。



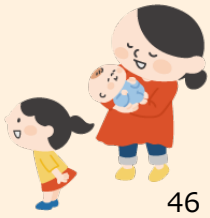


株式会社いかす

主な事業：農業

所在地：平塚市出縄764-1

HP：https://icas-organic.co.jp



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

水道管で自分だけのイスをつくろう！

https://koikesetsubi.com/blog/blog032.html

実際の水道管を使って、配管の擬似作業を体験しながらイスを組み立てていくプログラムです。イスは折りたたみ可能。ものづくりの楽しさと作り上げる達成感を味わうことができます。

取り組みのきっかけ

ものづくりの喜び、建設業界から発信

慢性的な人手不足に悩む建設業界に興味を持ってほしい、ものづくりの楽しさを知ってほしいという思いで企画しました。実際に使用している水道管を使うことで、組み立てていく過程は配管そのものです。子どもたちの自主性を育み「楽しい」「できた」を体感することが狙いです。



アクションに対する反応

体験が生む深い関心と形に残る達成感

「楽しい！」「意外と力が必要だな。」「ここにお水が通るの？」と興味関心を持っていただけています。友達同士で見比べてみたり、実際に座ってみたりして楽しむ様子が見られます。中には何年も家で使っている、という子もいて、こちらもやりがいを感じています。

アクションによる効果

教える工夫が社内の人材育成に

「教える」ことが必然と発生するので、社員は普段やっていることをどう子どもたちに伝えようか頭に汗かきながら考えています。コツや力加減など言語化することが難しいですが、創意工夫することで今度は現場で若手に教える際に役立っています。また、様々なシーンで私達の行動がお役に立てていることが社内で波及し、次は参加したいと意欲的な社員もいます。学校や団体を中心にお声がけいただくことが増え、需要を感じています。





夢を叶える企業になる 小池設備

株式会社小池設備

主な事業：給排水工事、空調衛生設備工事、上下水道引込工事、水道本管工事、水回りリフォーム、修理

所在地：相模原市南区西大沼1-18-2

HP：https://koikesetsubi.com/



かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

子どもに多様な体験機会を届ける『みーぱのじかん』

https://meepa.io/service/meepanojikan

『子どもの本当の好きに出会う』ために、保育・教育施設からお預かりした時間枠に、毎回異なる多彩なプログラムを提供することで、大人の発想に囚われない、多種多様な体験機会を子どもたちに提供する取組です。

取り組みのきっかけ

本当の好きに出会い育む生き抜く力を

子どもが一人ひとりにあった本当の好きに出会って、幸せな人生を送って欲しい、次の時代を『生き抜く力』を育んで欲しいという想いから、平等に多様な体験機会を提供するサービス『みーぱのじかん』をスタートしました。



アクションに対する反応

初めての挑戦が開く好奇心と得意の芽

普段触れることがないような体験も含め、多様な体験を高頻度で提供するため、子どもたちは初めて挑戦することにドキドキしながらも、講師の話や動きを集中して見聞きし、一生懸命挑戦します。体験後には「初めてできたよ！」「もっとやりたーい」と、保育者や保護者に目を輝かせて話をしてくれます。保護者の方からは、「これまで通り子どもを園に通わせるだけで、子どもが様々な新しい経験を積み、自分にあった好きや得意に出会える機会がつくれる」と特に共働きの世帯のご家庭から喜びの声を頂いています。

アクションによる効果

地域全体で育む体験格差のない未来に

近年社会課題となっている「体験格差」の解決に繋がっています。保護者だけが子どもを支えるのではなく、meepa、地域の保育・教育施設や講師とともに地域で子どもを支えていく連携ができる世の中になっていければなと思います。





meepa

株式会社meepa

主な事業：教育・学習支援業(子どもの体験機会提供)
所在地：中郡二宮町二宮884-1 エムビル2F
HP：https://meepa.io/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

ゆるスポーツ体験＆スポーツ共創

https://yurusports-yokohama.com/objective/

横浜市スポーツ協会は、ゆるスポーツの体験と誰もが楽しめるスポーツ創り（スポーツ共創）にチャレンジする授業を提供しています。スポーツが苦手な人や、障がいのある人も一緒に楽しめるスポーツを「自らのアイディア」で創り出し、発表を行います。

取り組みのきっかけ

誰もが楽しめる地域に根差したスポーツ開発

横浜ゆるスポーツ協会は、2016年に一般社団法人世界ゆるスポーツ協会が設立され、そのフランチャイズとして、横浜の地域に根差したスポーツを開発したいという想いで設立しました。その中で、2019年度から、パラスポーツ普及啓発プログラムの一環として、横浜市の学校に提供し始めたことがきっかけです。



アクションに対する反応

運動が苦手でも「ゆるスポーツは好き」

「スポーツは嫌いだけど、ゆるスポーツは好き」、「ゆるスポーツ創りは、色々なことに気づかされた」という感想をくれた児童がいました。また、先生や保護者の方からは、「あの子がこんな活躍をするなんて！」「スポーツ嫌いだったのに？」と驚きの反応もいただきました。創ったスポーツの発表機会では、「自分に自信をつけてくれた」、「頑張っている姿を見ることができて良かった」とコメントしてくださる保護者の方もいました。

アクションによる効果

スポーツ共創が生む地域課題の解決

ゆるスポーツは、5原則の一つに、「社会課題からスタートしている」という原則があります。地域の方とのコミュニケーションを取りたい、高齢の方と一緒にできるスポーツを考えたい、学校の名物を知って欲しい、など、地域課題を設定して取組んでいます。創ったスポーツを地域の方に一緒に体験してもらう機会を作るなど、実際に課題解決にもつながっています。





公益財団法人 横浜市スポーツ協会

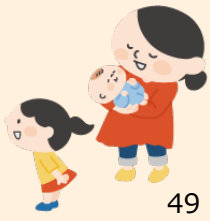
YURU SPORTS 横浜ゆるスポーツ協会 YOKOHAMA YURU SPORTS ASSOCIATION

公益財団法人横浜市スポーツ協会／横浜ゆるスポーツ協会

主な事業：サービス業（スポーツ・健康）

所在地：横浜市中区尾上町6-81 ニッセイ横浜尾上町ビル

HP：https://www3.yspc.or.jp/
https://yurusports-yokohama.com/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R7年度事例●

おはし探検隊～作って・学んで・伝えよう～

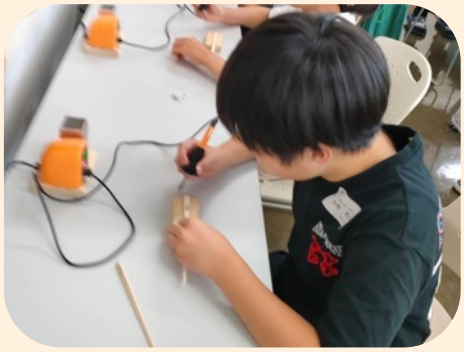
https://minnano084.com/event/kodomoad2024/

横浜市教育委員会主催「子どもアドベンチャーカレッジ」にて毎年200名の小学生へ、箸の持ち方と文化を楽しく伝える体験講座を実施しています。

取り組みのきっかけ

箸を通じて学び、文化への誇りを

箸の持ち方は単なる指先の技術ではなく、姿勢や体幹、集中力など、心と身体の発達に深く関わる大切な学びです。そこで、子どもたちが主役となって「つくる・学ぶ・考える」体験を通し、箸文化を楽しく身につけながら、食への自信と日本文化への誇りを育む機会をつくりたいと考え、この取り組みを始めました。



アクションに対する反応

箸づくりの体験が生む食の自信と笑顔

子どもたちが楽しみながら正しい箸の持ち方を身につけ、箸に込められた日本の心と食文化を親子で体験する講座で、自分が使う自分だけの箸をつくる喜びから始まり、体験を通じて子どもたちが"食べること"に自信と興味を持てるよう支援しています。参加した子どもたちは「世界の箸のことを知らなかったし、正しく持つことが大切だと感じた」などと笑顔で話し、ご家庭でも毎日練習を継続しているとの報告や、保護者からは「食事の時間が家族の楽しいコミュニケーションの場になりました」との声も多く届けられております。

アクションによる効果

環境保全や地域資源循環を意識

NPO法人みんなのお箸プロジェクトは、第６期「かながわSDGsパートナー」として神奈川県に登録され、SDGsが掲げる「社会・環境・経済」の３側面において地域に根ざした実践を展開しており、その活動が評価されています。また、伐採された横浜・大岡川の桜を活かすために始まった活動が、今では日本の箸文化を再発見しながら、環境保全や地域資源の循環に寄与する「体験型の箸育活動」へと広がっています。





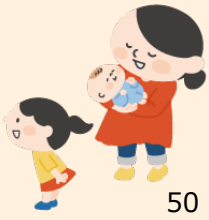
みんなのお箸プロジェクト

特定非営利活動法人みんなのお箸プロジェクト

主な事業：生活文化教育および食育活動

所在地：横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1 地球市民かながわプラザ1階NPOなどのための事務室内

HP：https://minnano084.com/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

出前授業を通じ子どもたちのよりよい生活への貢献

次世代を担う子どもたちの「食」と「健康」、そして明日のよりよい生活に貢献を目指し、県主催の「かながわサイエンスサマー」での味覚教室や働くことやSDGsについて学ぶ出前授業を川崎区や地域の企業等と連携して実施しています。

取り組みのきっかけ

幼少期から伝えたい！食と健康について

2005年7月に食育基本法が制定されたことに伴い、『おいしく食べて健康づくり』という創業の志を未来につなげるために、当社は、おいしく栄養バランスよく食べることの大切さを、大人になってからではなく、できるだけ早い段階で伝えていきたいという思いから出前授業をはじめました。



アクションに対する反応

出前授業が届ける食の学びと感謝の声

学校への出前授業を通じて、子どもからは、「５種類の味があることを知った。栄養があっておいしいものを食べて健康な体を作りたい。」といった声があったほか、先生からも子どもたちは好き嫌いが多く、栄養バランスよく食事をとることが難しいため、授業があってよかったといった喜びの声もいただいています。

アクションによる効果

消費者の声に直接触れる機会に

出前授業の実施を通じて、授業でふれあう年代以外の幅広い世代の消費者の声に触れることで、講師である従業員の業務棚卸や当事者意識の醸成により、働きがいの向上に繋がっていると感じています。





Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

味の素株式会社 川崎事業所

主な事業：製造業
所在地：川崎市川崎区鈴木町1-1
HP：https://www.ajinomoto.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

あおばみんなの学校プロジェクト

https://aobaschoolsupport.net/minnanogp/

キャンプ、実験、調理、まちづくりの取組など、年間を通して、様々なプロジェクトに小学生から大学生までの異学年のグループで協力して取り組んでいます。成功も失敗も経験できる場で、子どもたちは挑戦を重ね、自己肯定感を上げています。

取り組みのきっかけ

つながりを深める通年の自然体験

「青葉おばけやしきプロジェクト」でできたつながりを季節外でも実施できる活動として、キャンプ等の体験活動を通年で始めました。野外炊事やキャンプファイヤー、海や山の自然の中での活動など、非日常の取組が豊かな体験として、蓄積されています。



アクションに対する反応

憧れの姿を目標に巡る成長のリレー

あおばみんなの学校プロジェクトのキャンプで、年上のお兄さんお姉さんが活躍する様子を見て、数年後は自分もそうなりたいと目標にし、成長する様子は、うれしい出来事です。

アクションによる効果

共に生きる意識が引き出す自主性

子どもはやりたいアイディアをたくさん持っています。大人は、そのアイディアを引き出すために、大人と子どもを分けずに「共に生きる」という意識で関わり、場所を作ってあげることで、子どもたちは自主的に目標を見つけています。





NPO法人あおば学校支援ネットワーク

主な事業：社会教育

所在地：横浜市青葉区奈良4-1-1 B-106

HP：https://aobaschoolsupport.net/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

イベント開催

海の上を優雅に散歩する「SUP（Stand Up Paddleboard)」を楽しむ、「SUP（STAND UP PADDLE）」というイベントを開催し、海に触れる体験と身体を動かす取組を行っています。

取り組みのきっかけ

自然に触れ、体を動かしてほしい！

法人としての活動を通じ、近年、子どもの身体活動量の低下と自然との距離が開いているということに社会的課題があると考え、イベントの開催を通じてこうした課題に解決できると感じ取り組み始めました。



アクションに対する反応

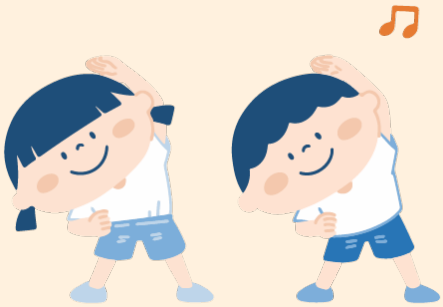
非日常の自然体験が届ける親子の笑顔

参加した子どもからは、普段は体験できない運動を楽しむ様子が見られ、保護者からは、「自分で実施することは難しい取組に参加できたことで、貴重な自然体験になった」「子どもが主体の取組でありながらも保護者も参加して親子で自然に触れることができた」といったお声をいただきました。

アクションによる効果

楽しく体を動かして活動量増加

イベントに参加することで、楽しく体を動かし、子どもの身体活動量が増加したと感じています。SUPイベントのほか、ランニングやレクリエーションの場を通じて、子どもの抱える社会課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。





NPO法人HpRun

主な事業：特定非営利活動
所在地：横浜市旭区金が谷1-6-7-4
HP：https://www.hprun.jp/npohprun



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

小中高生向け工場見学と出張講座

食品リサイクルの事業内容や処理の仕組みを学ぶ機会として、小中高生向け工場見学の実施や展示会への参加をしています。また、肥料の提供先農家と連携し、メタン発酵の実験や農業への活用法を紹介する出張講座も実施しています。

取り組みのきっかけ

学び深める工場見学を近隣中学へ

SDGs目標４「質の高い教育をみんなに」の実現に向け、近隣中学校の工場見学の受入を開始したことがきっかけです。資源の有効活用やCO2排出量削減の取組を紹介する社会科見学を実施するほか、食品ロス防止意識やメタン発酵の仕組みを学ぶ理科実験をテーマに、外部団体と連携し小学校低学年から中学生までを対象にしたSTEAM教育も実施しています。



アクションに対する反応

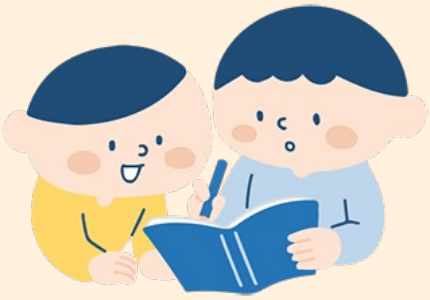
「もったいない」で食品ロスへ高まる関心

食品ロスやリサイクルに興味を持つ子どもが増え、様々な意見や質問をいただいています。「リサイクルはエコだけど、ごみを出さないことが大切。食べ残しをなくすなど自分にできることをしたい」等、身近な改善策に繋がる声もいただきました。食品ごみを目にすることで〝もったいない〟という気持ちが芽生え、食品の大切さについても学べる機会になっています。

アクションによる効果

取組をきっかけに幅広い層への発信が充実

子どもを対象にした見学会や出張講座への取組をきっかけに、子ども向けの見学資料や環境教育用の冊子を作成しました。リサイクルの仕組みだけでなく、地球環境問題と廃棄物・資源循環の関係を学べるように内容の見直しも行い、より幅広い層への発信を目指した教育資料の更新やワークショップ等の充実化が進んでいます。





JBiO FOOD RECYCLE

株式会社Jバイオフードリサイクル

主な事業：食品リサイクル・バイオガス発電事業
所在地：横浜市鶴見区弁天町3-1
HP：https://www.j-bio.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

スマイルパス

https://yokohama-ex.jp/news/detail/id=20972

横浜市内の小中学生・未就学児のお子さんを対象に、横浜エクセレンスのホームゲーム全試合を無料で観戦できるシーズンパス「スマイルパス」を発行する取組です。

取り組みのきっかけ

スポーツを通じ笑顔を生む地域連携

地域でもっとも愛され、応援される存在を目指し、ホームタウンである横浜市を中心とした地域連携活動を、多岐に渡り実施しています。クラブ理念である「スポーツを通じて たくさんの人を笑顔に」し、より良い未来に貢献するため、横浜エクセレンスを中心としたコミュニティ形成をしていきたいという想いから、これらの取組が始まりました。



アクションに対する反応

試合の迫力と観戦の楽しさが育む地元愛

バスケットボールの試合を観ることの楽しさや、迫力を非常に魅力に感じていただいているお子さんが多いです。また、試合だけでなく、地域連携活動についても知ってもらうことができ、「地元愛に溢れ、親しみやすさが感じられる」といった、お声を多くいただいています。

アクションによる効果

誰もが楽しめるスポーツの喜びと感動

ホームアリーナ（横浜武道館）のある中区を拠点に活動していますが、外国につながる子どもが多く在住しているエリアです。我々のような外国籍の選手を抱えるプロスポーツクラブを通じて、国籍・年齢・性別・障がいの有無に関係なく、「スポーツをする喜びや楽しみ」「助け合いや感動体験」を提供できていると感じています。





株式会社横浜エクセレンス

主な事業：プロスポーツクラブ

所在地：横浜市中区真砂町2-25 関内中央ビル4階 K402

HP：https://yokohama-ex.jp



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

EX Community Project

https://yokohama-ex.jp/news/contents_type=77

ホームタウンである横浜市を中心とした地域連携活動を年間で120回以上*実施しています。「スポーツをする・みる・ささえる」を軸に、バスケットボールの普及や、健康増進・教育・地域振興を目的とした活動です。

*2023-24シーズン実績

取り組みのきっかけ

笑顔届ける地域コミュニティづくりを

地域でもっとも愛され、応援される存在を目指し、ホームタウンである横浜市を中心とした地域連携活動を、多岐に渡り実施しています。クラブ理念である「スポーツを通じて たくさんの人を笑顔に」し、より良い未来に貢献するため、横浜エクセレンスを中心としたコミュニティ形成をしていきたいという想いから、これらの取組が始まりました。



アクションに対する反応

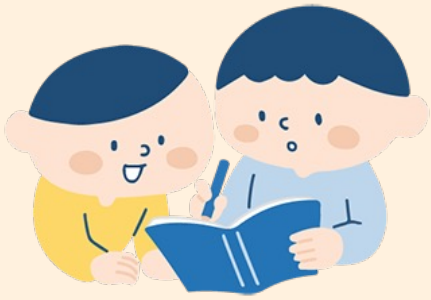
プロとの交流で得る貴重な体験と学び

「選手と交流しながらバスケットボールの練習ができたのでとても良かった」「選手が2つのボールでドリブルをしていたのがすごい」など普段できない経験ができているほか、職業体験では、「選手に会える嬉しさ、事務所のスタッフの皆さんの楽しい雰囲気によって、人とコミュニケーションをとる大切さが学べた」等の声をいただいています。

アクションによる効果

クラブとのつながりが生む地域の一体感

プロバスケットボール選手や専属チアリーダーズと触れ合うことで、スポーツへの興味や夢を抱くきっかけづくりにつながり、結果的にクラブへの応援につながっています。地域の方とクラブとつながることで「自分らしく暮らしていける地域社会、住み続けたい」と思えるきっかけをつくり、地域社会との一体感を醸成できていると感じています。



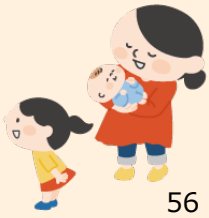


株式会社横浜エクセレンス

主な事業：プロスポーツクラブ

所在地：横浜市中区真砂町2-25 関内中央ビル4階 K402

HP：https://yokohama-ex.jp



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか
やってみた

●R6年度事例●

スマイルアンバサダー

https://yokohama-ex.jp/news/detail/id=21661

20の国や地域につながる子どもたちが学んでいる横浜市立南吉田小学校5年生による「2024-25シーズン横浜エクセレンススマイルアンバサダー」の活動。総合的な学習時間の一環として、ともに地域を盛り上げるべく、多様性を尊重する様々な活動を行っています。

取り組みのきっかけ

笑顔のための地域連携活動

地域でもっとも愛され、応援される存在を目指し、ホームタウンである横浜市を中心とした地域連携活動を、多岐に渡り実施しています。クラブ理念である「スポーツを通じて たくさんの人を笑顔に」し、より良い未来に貢献するため、横浜エクセレンスを中心としたコミュニティ形成をしていきたいという想いから、これらの取組が始まりました。



アクションに対する反応

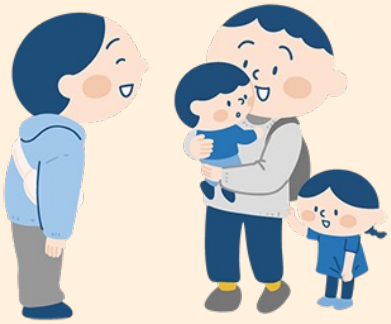
広がる視野と地域社会の一員の自覚

「一緒に活動を行うことで、いろんな視点で考えることができるようになり、ほかの活動にも生かすことができた」「地域の人と住んでいる地域を盛り上げる活動ができて楽しい」といったお子さんからの感想をいただくほか、「社会の一員として参画することができて、子どもの自信に繋がっている」といった保護者からのお声をいただいています。

アクションによる効果

企業連携で深まる子どもたちの社会体験

横浜エクセレンスを通じて、子どもたちが社会的な体験をしてもらうことで、地域貢献をしたい企業とのつながりを増やし、より多角的に子どもたちの社会体験の創出ができています。子どもたちと一緒に「地域を盛り上げたい」というビジョン共有を行うことができています。





株式会社横浜エクセレンス

主な事業：プロスポーツクラブ
所在地：横浜市中区真砂町2-25 関内中央ビル4階 K402
HP：https://yokohama-ex.jp



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

相鉄線沿線「学びクラブ」

https://www.sotetsu-bm-areamanagement.com/

相鉄線沿線の「住みたくなる街」に子どもたちをご案内することを目的に、人と自然という資源を活用した、生き物観察や星空観察等の体験学習型イベントを定期的に開催しています。

取り組みのきっかけ

集客から住みたいまちづくりへ進化

もともと沿線の商業施設へファミリー層に足を運んでもらうために実施していましたが、継続して実施する中でファンが生まれ、より発展した「住みたいまち、住み続けたいまち、未来のまちづくり」を実現するための、地域をつくる取組へとシフトしていきました。



アクションに対する反応

沿線の自然と文化にふれ高まる満足度

沿線の文化や自然に触れられる体験であり、身近な自然を改めて発見でき楽しかったという声、学びにつながり良かったという声を子どもからも保護者からもいただいています。リピーターもおり、参加者の満足度の高い取組となっています。

アクションによる効果

愛着と誇り育むまちづくりに

沿線に住んでいる人も、住んでいない人も沿線の魅力を発見できる機会になっています。まだ途上ではありますが、次世代を担う子どもたちを地域で育み、成長した後も地域に愛着と誇りを持てるような「まち」となるよう、チャレンジしています。





相鉄グループ

主な事業：運輸業
所在地：横浜市西区北幸2-9-14
HP：https://www.sotetsu.co.jp/



かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

フィード・ワン食育講習会

https://www.feed-one.co.jp/csr/social/community.html

配合飼料メーカーならではの視点で、中高校生を対象とした食育講習会を行っています。家畜や養殖魚がどのように育てられ食卓へ届くのか、畜水産物の生産過程について解説し、調理実習を通して食材の栄養や食べ方を学んでいます。

取り組みのきっかけ

飼料について伝える食育講習会

毎日食べる肉や魚を生産するために飼料は欠かせないものですが、なかなか飼料について知ってもらう機会がないことが当社の課題のひとつとなっていました。そこで、当社の飼料で育った畜水産物を食材として使うことで、より飼料を身近に感じでもらえるのではないかとの思いから「食育講習会」を実施することとなりました。



アクションに対する反応

深まる畜水産業への理解と生活の知恵

食育講習会を受けていただいた生徒からは、配合飼料はもちろんのこと、畜水産業界についても「初めて知ったことばかりだった」というお声や、食材の特徴や選び方などを「普段の生活に役立てていきたい」とのお声をいただいています。

アクションによる効果

健康で楽しい食生活を手助け

畜水産業界に興味を持ってもらったり、配合飼料メーカーならではの視点で畜水産物の生産過程や食材の栄養についてお伝えすることで、健康で楽しい食生活を送る一助となっていると感じています。

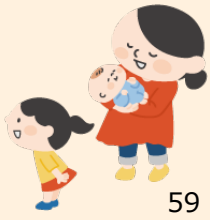




おいしさのみなもと フィード・ワン株式会社

フィード・ワン株式会社

主な事業：配合飼料の製造・販売
所在地：横浜市西区みなとみらい5-1-2
HP：https://www.feed-one.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



●R6年度事例●

フィード・ワンこども参観日

https://www.feed-one.co.jp/csr/social/open-day.html

「こども参観日」は、従業員の子ども達を職場に招き、１日社員として当社事業について学ぶとともに、オフィス見学や名刺交換体験などを行うイベントです。子ども達が親の仕事への理解を深め、「働くこと」について考えるきっかけになっています。

取り組みのきっかけ

家庭とのつながりで生む 働きやすい職場を

当初は従業員のワークライフバランスの推進を目的に、家庭と企業の接点を創出し、子どもが親の仕事への理解を深めることで、従業員のエンゲージメント向上につながることを期待して開始しました。アクションに取り組む中で、職場で従業員同士の家族の顔を見る機会ができ、働きやすい職場づくりの一助となっています。



アクションに対する反応

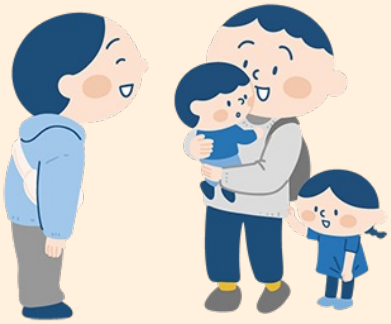
１日職場体験で広がる親子の会話

子どもは親の働く職場に出向く機会が少ないため、多くの大人が働いている現場に来ることや、１日社員としてタイムカードを押して入室すること、名刺交換の体験等は特に楽しんでくれています。保護者である従業員からは、自分の仕事に興味を持ってくれたなど、家庭内でのコミュニケーションの活性化にも繋がっている実感があるようです。

アクションによる効果

従業員同士、深まる理解と相互支援

こども参観日では、同僚の子どもと接したり、同僚が子どもに接する「家庭の顔」を垣間見たりすることがあります。仕事以外での顔を見ることにより、従業員同士の理解が深まり、サポートし合う関係が強化される効果も出てきたと感じています。

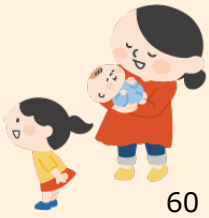




おいしさのみなもと フィード・ワン株式会社

フィード・ワン株式会社

主な事業：配合飼料の製造・販売
所在地：横浜市西区みなとみらい5-1-2
HP：https://www.feed-one.co.jp/



体験型等こどもの育ち応援

かながわ こどもまんなか プロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R6年度事例●

二酸化炭素排出量について学ぶSTEAM教育イベント

https://spras-aobadai.net/news/2222/

循環型素材など、化学に関係するSTEAM教育イベントを開催しています。 例えば、植物由来原料を用いた合成紙「ユポ」を用いたワークショップでは、素材の持つ不思議な特性を子どもたち自らが観察し、考え、アートにして楽しく学びました。

※「ユポ」は㈱ユポ・コーポレーションの登録商標です。

取り組みのきっかけ

企業研究を地域へ届ける化学教室

2022年にリニューアルした青葉区の研究所では、地域との接点づくりとして「青葉台リビングラボ」の活動を行っています。当社の製品は企業向けのものがほとんどのため、これらの研究が「生活や社会課題に向いているものでありたい」という想いから、地域のNPO団体等と連携し、地域の子どもたちへ化学教室という関わりで取組を始めました。



アクションに対する反応

楽しく学び、芽生える環境意識

参加した子どもから、「環境に優しいことを楽しい工作をとおして学べた」「ユポの飾りが静電気で魔法のようにすぐ付いて楽しかった」といった声のほか、保護者の方からも「子どもたちが将来の仕事や社会にも興味を持てる内容だった」といった声をいただいています。

アクションによる効果

地域連携で拓く子どもの未来

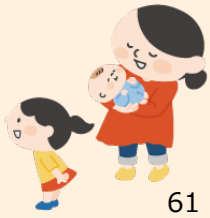
参加した子どもや保護者からの評価も高く、当社としても手ごたえを感じています。
このほか、近隣の大学や地域のパートナーと連携し、子どもの未来を考える取組を続け、地域や社会の課題解決に向けて、地域活性化を図っていきたいと考えています。





MITSUBISHI CHEMICAL GROUP

三菱ケミカル株式会社
Science & Innovation Center
主な事業：製造業（総合化学）
所在地：横浜市青葉区鴨志田町1000
HP：https://www.mcgc.com/index.html



かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなかやってみた

●R8年度事例●

子育て手当（新設）

子育て中の従業員を対象に「子育て手当」を支給しています。対象は18歳（高校卒業）までで、1人目は月2万円、2人目以降は月1万円ずつ加算されます。雇用形態（正規・非正規）を問わず全員に支給しています。

取り組みのきっかけ

若手獲得と社員の長期雇用を見据えて

従業員の高齢化が進む中、若い世代から選ばれる企業づくりを目指して本制度を新設いたしました。また、既存の社員にも末長く安心して勤務してもらえるよう、経済面からもしっかりとサポートしたいという思いから開始いたしました。



アクションに対する反応

育児休業や子育てへの理解が社内に浸透

子育て中の従業員をはじめ、これから子育てを迎える世代や子育てを終えた世代からも、会社が子育てを応援する姿勢に対して非常に好評を得ています。社内全体で育児休業や子育てへの理解が深まり、誰もが安心して子育てと仕事を両立できる温かい職場環境になってきています。

アクションによる効果

子育て支援から全従業員が働きやすい職場へ

子育て中の従業員が働きやすい環境を整えることが、結果として全従業員にとっても働きやすい職場づくりにつながるという意識が社内に定着しました。これから入社する若手社員も含め、ライフステージの変化に応じた多様な働き方を支え、長期にわたり活躍し続けられる会社づくりの土台が整いつつあります。

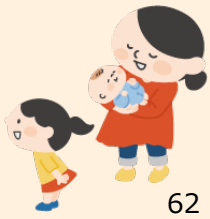




KSP ひとものまもる、未来をつくる。

株式会社KSP

主な事業：警備業
所在地：横浜市中区山吹町1-1
HP：https://ksp-kokusai.co.jp/



かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

忙しい保護者のお助け晩ごはん タスミィ

https://media77006.wixsite.com/tasmee

タスミィは、保育施設に販売用ディスプレイケースを設置していただき、保護者がお迎え時に、子ども1人前＋大人1人前のパウチ入りレトルト惣菜を購入できるサービスです。忙しいお母さん・お父さんの心の余裕を作り、親子が一緒に過ごす温かい時間を少しでも増やすことを目指しています。

取り組みのきっかけ

自身のワンオペ育児の苦労から事業化

事業推進者の石井が、妻の第二子妊娠時に120日間のワンオペ生活の中で、仕事・育児・家事とあまりの忙しさに、第一子が通う保育園の園長先生に「保育園の給食を売ってほしい！」とお願いするも叶わなかった経験から、事業を立ち上げました。



アクションに対する反応

食事購入がもたらす心のゆとりと交流

保護者の方からは、「保育園のお迎え後に子ども連れてスーパーとか考えられないから、保育園にあると思うだけで心が軽くなる。」「力尽きて作れないとき助かる！！」などのお声をいただいております。導入先の施設の方からは、保育園が専用ECサイトから購入して販売いただく方式をとっているため当初は戸惑われる方もいらっしゃいましたが、「タスミィがキッカケで「今日は何食べるの～？」など、職員と保護者はもちろん、保護者間でのコミュニケーションがより活発になりました」などのお声をいただいております。

アクションによる効果

広がる親子時間の支援

常温での保存が可能で、賞味期限も製造から1年以上と長いため、災害時の非常食としても利用いただけます。また保育施設だけでなく、学童施設や事業所などに設置したいといった問い合わせもいただいております。親子の時間をより豊かにできるよう、保護者と子どもの毎日のラストワンマイルとなり得る様々な場所でこれからも取り組みの輪を広げていきます。

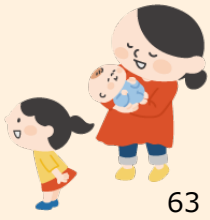




PatchworkQuilt

パッチワークキルト株式会社
（ハウス食品グループ）

主な事業：食品・サービスの販売、運営
所在地：東京都千代田区紀尾井町6番3号
HP：https://media77006.wixsite.com/tasmee



共働き・共育て

かながわ こどもまんなかプロジェクト



＃こどもまんなか やってみた

●R7年度事例●

社内風土づくりから広がった子育て・共働き応援

https://www.harabo.co.jp/sustainability

子育てに寛容な社内風土が、社内制度の整備とともに徐々に浸透していった結果、全社をあげて子育てを応援する流れが生まれ、出前授業、子ども食堂への寄贈、子ども基金への協賛など社外へと波及していきました。

取り組みのきっかけ

代表の育児経験から始まる環境づくり

3人の子どもの父親でもある弊社代表・江守は、会社経営をしながら育児に関わる中で、仕事と子育ての両立がいかに大変か、身をもって体験しました。そして、日々その両立に追われる優秀な社員たちが、キャリアをギブアップすることなく、できるだけ安心して長く働き続けられる環境を作りたいと、社内制度の整備を始めました。



アクションに対する反応

制度と寛容な社内風土が生む安心感

弊社は、女性社員の割合が60%以上、子育て中の社員の割合は55%以上と、比較的高い方かと思います。そうした会社の状況において、仕事と子育て（および介護・通院など）の両立を目的とした社内制度の整備については、助かっているといった感謝の声が多数挙がっています。また、社内制度だけでなく、仕事とプライベートの両立をお互いに許容する社内風土が構築できていることで、実際に子どもの病気などで急きょ休まざるを得なくなった場合にも安心して申請できる風通しのよさがあるといった意見も多いです。

アクションによる効果

社内から地域へ広がる子育て応援の輪

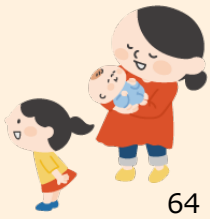
子育て中の社員に対して寛容な社内風土の醸成とともに、全社的に子ども・子育てをより広く応援したいと考えるようになり、出前授業や職場見学、子ども食堂などへの寄贈など、取り組みの幅を少しずつ広げてきました。こうした取り組みについても、ありがたいことに感謝のお声をいただいており、世の中のお子さんやご家族により一層喜んでもらえる商品づくりをしようという日々のモチベーションにつながっています。





原貿易株式会社

主な事業：輸出入事業、小売製造業
所在地：横浜市神奈川区松本町4-33-1
HP：https://www.harabo.co.jp/



共働き・共育て

かながわ こどもまんなかプロジェクト



●R6年度事例●

仕事と育児の両立支援ハンドブック

https://www.mcgc.com/sustainability/mcc/stakeholder/employees.html

従業員の育児参加を推奨し、男女ともに仕事と育児を両立できるよう社内制度を整えています。特に、育児参画の必要性、育児との両立に関する基礎知識や心構え、具体的なアクションについて理解を深めてもらうことを目的にハンドブックを発行しています。

取り組みのきっかけ

全社員の育児と仕事の両立を支援したい

育児をしながら働く従業員を長期的視点で支援し、両立しやすい環境を整える取組の一環として、2008年6月から本ハンドブックの発行を進めました。都度、内容を最新のものにアップデートしており、出産する従業員だけではなく、子どもが生まれる予定の男性従業員に必要な情報も提供しています。



アクションに対する反応

社内ポータルへ情報集約がお役立ち

従業員向けのポータルサイトに「育児との両立支援」の情報を集約したページを設けており、ハンドブックを含めたポータルサイトの情報が役に立ったとの声が寄せられています。

アクションによる効果

環境整備で進む 男性の育児休職の取得率

男性が育児に参加しやすい環境を充実させるため、休暇制度の変更とともに子どもが生まれる予定の男性従業員と上司が一緒に閲覧できる啓発動画や、本ハンドブックの公開を通じ、男性の育児休職取得促進の風土醸成を行っています。近年、男性の育児休職取得率が向上しており、これらの取組が一助となったと考えています。





MITSUBISHI CHEMICAL GROUP

三菱ケミカル株式会社

主な事業：製造業（総合化学）
所在地：東京都千代田区丸の内1-1-1
横浜市青葉区鴨志田町1000 Science & Innovation Center
HP：https://www.mcgc.com/index.html

